

Benesse Art Site Naoshima
Press Kit

General

全体概要

2015 4.1

Benesse
Art Site
Naoshima

ベネッセアートサイト直島とは

「ベネッセアートサイト直島」は、直島・豊島(香川県)、犬島(岡山県)を舞台に(株)ベネッセホールディングスと(公財)福武財団が展開しているアート活動の総称です。

瀬戸内海の風景の中、ひとつの場所に、時間をかけてアートをつくりあげていくこと―各島の自然や、地域固有の文化の中に、現代アートや建築を置くことによって、どこにもない特別な場所を生み出していくことが「ベネッセアートサイト直島」の基本方針です。

各島でのアート作品との出会い、日本の原風景ともいえる瀬戸内の風景や地域の人々と触れ合いを通して、訪れてくださる方がベネッセホールディングスの企業理念である「ベネッセーよく生きる」とは何かについて考えてくださることを目指しています。

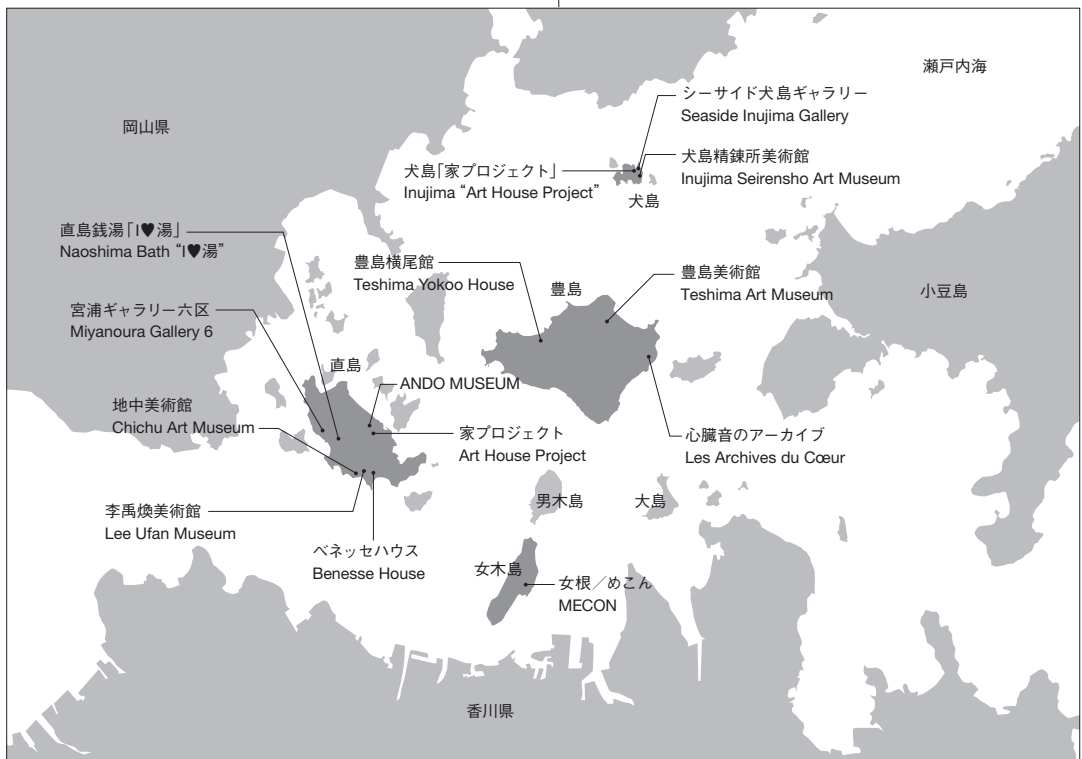
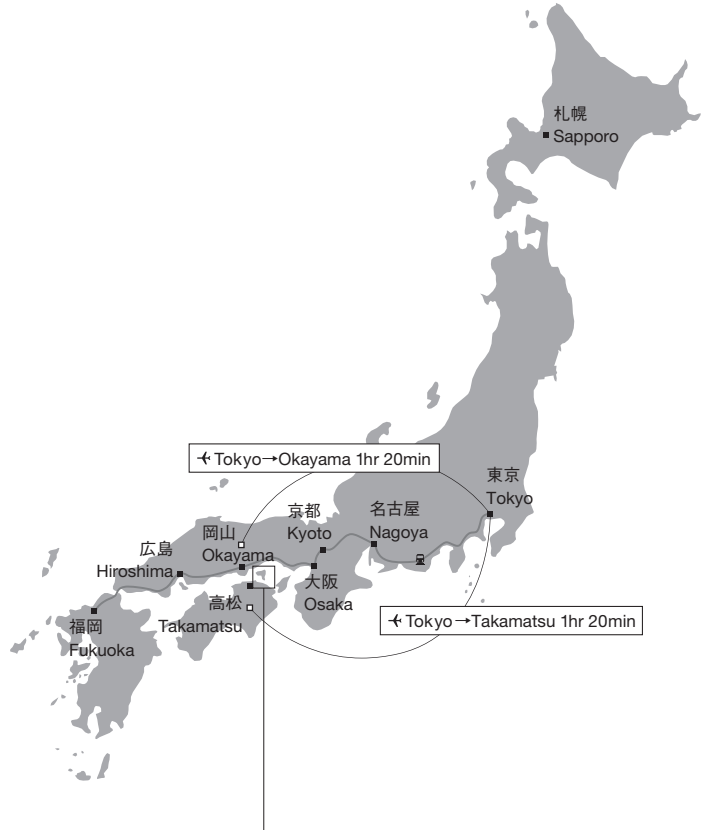
そして、活動を継続することによって地域の環境・文化・経済すべての面において社会貢献できるように、現代アートとそれを包括する場である地域がともに成長し続ける関係を築いていきたいと考えています。

株式会社ベネッセホールディングス

ベネッセグループは、国内教育、海外教育、生活、シニア・介護、語学・グローバル人材教育の各分野において、「Benesse=よく生きる」を目指して、志をもって夢や理想の実現に向けて一步一步近づいていこうとする人々の向上意欲と課題解決を生涯に渡って支援しています。1955年創立。

公益財団法人 福武財団

2004年に直島の地中美術館の開館を機に設立。直島、豊島、犬島を舞台に、ベネッセホールディングスとともに自然、アート、建築による地域振興を目指し、美術館事業、助成事業、瀬戸内国際芸術祭や大地の芸術祭を中心とした支援など、さまざまな事業活動を行っています。



瀬戸内海と私

— なぜ、私は直島に現代アートを持ち込んだのか

公益財団法人 福武財団理事長 株式会社ベネッセホールディングス最高顧問 瀬戸内国際芸術祭総合プロデューサー

福武総一郎

東京から瀬戸内へ

かつて私は、若いころは主に東京で生活をしていましたが、40歳になったときに父が急逝したため、本社のある岡山へ帰る事になり、父が進めていた直島での子どもたちのキャンプ場作りのために何度も直島を訪れるようになりました。そのプロジェクトに関わりながら、島の人々との交流を深め、また趣味のクルーズで瀬戸内の島々を回っていくうちに、瀬戸内海的美しさ素晴らしさと同時に、歴史や文化、島々に暮らす人々のあり方を再認識するようになりました。

瀬戸内の島々の多くは、今日では離島とか過疎の島といわれていますが、近代化の波に洗われていない、かつて日本人が本来持っていた心のあり方や暮らし方、地域の原風景が残っていました。それらは民家のたたずまいであり、人々の慣習であり、近所付き合いであり、自然の恵みを直接いただくという、ある面では自給自足的な生活でもありました。

また、瀬戸内海の島々は、日本で最初の国立公園に認定されながら、日本の近代化や戦後の高度成長を支え、かつその負の遺産を背負わされた場所でもあります。直島や犬島には亜硫酸ガスを出す製錬所が建てられ、豊島は産業廃棄物の不法投棄が行われ、島々の自然と島民は痛めつけられました。また、大島はハンセン病の人々を収容する療養施設として、長い間、社会とは隔離され続けたのです。

在るものを活かし、無いものを創る

このように、私は瀬戸内の島々と深くかかわりながら、東京での生活や社会

のあり方を比較すると、これまでの自分の考え方が180度、転換して行くのを感じるようになりました。つまり、「近代化」とは「都市化」と同義語であり、東京に代表される大都会は、人間が自然との営みから離れ、人間の欲望だけが固まった、化け物のような場所ではないか、ということです。そこでは、絶え間ない、刺激と興奮、緊張と享楽に溢れており、かつ人々をそれらの競争の渦のなかに巻き込んでいく社会であります。今、都会においては、無差別殺人や子どもの育児放棄を見るまでも無く、隣人には全く無関心であり、心豊かな居場所であるとはとてもいえません。子どもたちは、豊かな自然と触れ合う遊び場もなく、小さい時から経済中心の競争世界のなかに放り込まれ、洗脳されています。

そうした状況を、人々は決してよい社会であるとは思ってはいませんが、その蟻地獄のような大都会から脱出する事は大変な勇気が必要とします。また、今日においても、多くの地方の若者たちは、こうした都市の魔力に吸い寄せられています。そしてここ瀬戸内海においても、若者は都会を目指し、多くの島には高齢者だけが残り過疎化がさらに進む事態が続いています。私は、この様な大都会の現状と、瀬戸内の人々の暮らし方を見ているうちに、近代化のベースとなっている考え方である、「破壊と創造」の文明、つまり「在るものを壊し、新しいものを作り続け、肥大化していく文明」のあり方に深い疑念を覚えたのです。そうした、「破壊と創造を繰り返す文明」から、「在るものを活かし、無いものを創っていく」という、「持続し成長していく文明」に転換して行かなければいけない。そうでなければ、文化の継承と発展は出来ないし、我々の作ったものも、いずれ後世

に抹殺されてしまうだろうと考えました。

人はいい地域に住むことで 幸せになれる

このような現代社会における、大都市の抱える問題と、瀬戸内のような地域の現状との矛盾を考えるなかで、瀬戸内の島々の様な、近代化に汚染されていない日本の原風景が残る場所に、現代社会を批判するメッセージ性を持った、魅力的な現代美術を置いたら、地域が変わっていくのではないかという思いを強く抱くようになり、それを実践してきました。そうしたところ、現代美術を見るために、直島に多くの若い人たちが訪ねて来るようになり、都会では得られない地域の良さを発見したりします。また、彼らとの交流により土地の人々も、特に地域のお年寄りが、どんどん元気になっていく様子を見て、私自身も驚き、うれしくなるとともに、なぜ都会に住む人々は、心から幸せでないのだろうかということも、考えるようになりました。

都会では、人々が「自己実現」と称して、他人よりも多くの幸せを得ようと努力していますが、それでは本当の幸せをつかむことができません。なぜなら、「人間は、幸せなコミュニティのなかに居なければ、ほんとうに幸せにはなれない存在である」からです。自己の幸福だけを追求し、そのことを競争する都会の人々は、一方では絶えず欲求不満と不安を覚えることになります。

有名なアメリカの心理学者であるマズローの説によると、人間の欲求には5段階があるといえます。アメリカにおける近代化とは、その最上位にある個人の「自己実現」の考え方と、「Cash is King」の金融資本主義と、「自由主義的

競争原理」とがあいまって、自己の幸福を最大化する社会を目指し、結果として格差社会を生み出していきます。しかし、マズローが本当に言いたかったことは、人間の欲求は5段階ではなく、正しくは6段階あり、最上位には「良いコミュニティを作ること」があったといいます。マズローが活躍した1950年ごろのアメリカは、「アカ狩り」といわれるマッカーシズムが吹き荒れ、共産主義を連想する「コミュニティ」という最上位の概念を抹殺したともいいます。それでは、幸せなコミュニティとはどこにあるのでしょうか。現在も、世界の多くの人々は、そうしたユートピアは現世にあるのではなく、天国や極楽にあり、死んでから行けるものだと信じているようです。果たしてそうでしょうか？ 来世の天国が良かったと帰って来た人は一人もいないのです。

お年寄りの笑顔があふれる直島

私は、直島のお年寄りたちが、現代美術に馴染み、島を訪れる若い人々と笑顔で接してドンドン元気になっているのを見て、幸せなコミュニティとは「人生の達人であるお年寄りの笑顔が溢れているところ」と定義することができました。どんな人生であったとしても、お年寄りは人生の達人であり、彼らは「年をとればとるほど幸せである」べきです。人生の達人が、足腰が弱くなっても、多少記憶力が落ちてても、笑顔が溢れているということは、不安で将来の見えない現在の若い人にとって、笑顔のある将来の自分たちの居場所がある、ということになります。人間には、お母さんが笑えば赤ちゃんも笑うという「母子相互作用」といわれる本来的な現象がありますが、同じように、お年寄りの笑顔は若者を笑顔にします。

そうした理由で、今や直島は世界で一番幸せなコミュニティであり、海外からも多くの人々が訪れるようになりました。島を訪れた方々は、ぜひ島の人たちに逢って貰いたい。そして、私は、直島における、この世の極楽のコミュニティの経験を、さらに直島以外の瀬戸内の島々にも広げ、それも直島と同じもの

ではなく、それぞれの島の文化や個性を生かした形で、島の人々やボランティアの皆さんと一緒に作ろうと思いました。そして、その事が出来るメディアは、良質の現代美術を除いてまだ私は知りません。現代美術は、人々を覚醒させ、地域も変える偉大な力を持っていると信じています。私もお手伝いさせていただいている「越後妻有トリエンナーレ」(大地の芸術祭)の総合ディレクターである北川フラムさんの協力も得て、この「瀬戸内国際芸術祭」のプロジェクトが始まりました。

瀬戸内海から新しい文明観を発信

「近代化とは都市化」の時代であると述べ、今の大都市のあり方を大いに批判しましたが、私は近代化や都市化を全く否定するつもりはありません。「都市」というのは人間にとっては、人々の気分を自由にし、魅力ある空間であることも事実です。日本にも、東京のマネではなく、もっとそれぞれの地域の歴史と文化を生かした都市が生まれることを期待しています。

現代社会に対するメッセージを持った現代美術を媒介にして、そうした都市と、自然溢れ個性ある島々を繋ぐ事によって、都会と田舎、そしてお年寄りと若者、男と女、そこに「住む人々」と「訪れる人々」とが互いに交流し、お互いのよさを発見し、認め合うことができます。そのことが都市に住む人々にとってもいい影響をあたえ、過疎といわれる地域も蘇り、それぞれの地域の持つ多様で豊かな文化を活かしていく「バランスのとれた価値観の社会」が出来る事を期待しています。そして「在るものを活かし、無いものを創っていく」という21世紀の新しい文明観を、ここ瀬戸内海から、世界に発信していきたいと思っています。

公益資本主義を目指す

私は慈善活動家でも評論家でもありません。地方の一事業者です。そして富の創造は、殆どが企業活動によってなされる事を知っています。わが社(ベネッセホールディングス)が目指しているこ

とは、現在、世界経済を崩壊に陥れている「金融資本主義」とは対極にあります。それはお金だけが経済活動の目的ではないということであり、そのことを私はよく「経済は文化の僕である」と言っています。人々を心豊かにするのは経済活動だけでは出来ません。経済の繁栄だけを目的化すると、かえって人々は不幸になると思います。文化、すなわち「人々が幸せになれる、いいコミュニティづくり(お年寄りの笑顔があふれる社会づくり)」のために経済はあるのだと私は思います。現在私は、その具体的な実現のために「公益資本主義」という新しい経営の概念を提唱しています。それは、企業が、文化や地域振興を明確な目的とする財団を創設し、その財団がその株式会社の大株主になり、そこで得られた配当を資金として、社会に貢献できる仕組みをつくることです。この「公益資本主義」の考えと実践、成果を、世界へ伝えていきたいと思っています。アートによる地域の再生とこの世のユートピア創造、そしてそれを可能にする新しい公益資本主義の考え方。こうした文化と企業の新しいあり方、考えを世界へ広げていくのが「瀬戸内国際芸術祭」の持つひとつの意味だと私は思っています。

(平成22年8月6日、「瀬戸内国際シンポジウム2010」より)。

福武 総一郎 経歴

岡山県出身。早稲田大学理工学部卒業。1973年福武書店(現ベネッセホールディングス)入社。1986年代表取締役社長。2007年代表取締役会長兼CEO。2014年同社最高顧問に就任。直島・豊島・犬島など瀬戸内海の島々を自然と建築で活性化する活動(ベネッセアートサイト直島)を25年以上にわたって指揮。2004年(財)直島福武美術館財団(現(公財)福武財団)を設立し、直島に地中美術館を開館。同年、直島町名誉町民受賞。その他、芸術選奨(2008年)、日本建築学会文化賞(2010年)、日本建築大賞(2011年)、モンブラン国際文化賞(2012年)など受賞。

ベネッセアートサイト直島の変遷

1989

直島国際キャンプ場

1985年、瀬戸内海の島に世界中の子どもたちが集える場を作りたいと(株)福武書店(当時)の社長福武哲彦が、直島の南側を教育的な文化エリアとして開発したいと思い描いていた当時の直島町長三宅親連と会談し、直島開発の約束を交わした。

1989年よりキャンプ場を一般OPEN。

1992

ベネッセハウス OPEN (7月)

美術館とホテルの機能を兼ね備えた「ベネッセハウス」オープン。同時に、「直島コンテンポラリーアートミュージアム」という名称でアート活動を始める。1994年の「OUT OF BOUNDS」展では、美術館の建物から出て作品を展示、その後のサイトスペシフィック・ワークへの重要なステップとなる。

1995

ベネッセハウス オーバル OPEN (7月)

安藤忠雄設計による宿泊専用棟、ベネッセハウス オーバルが完成。

1996

サイトスペシフィック・ワーク

アーティストを招いて「直島にしかない作品」を制作してもらい、完成した作品はベネッセハウス内外に永久展示するコミッションワーク形式によるサイトスペシフィック・ワークの制作へと方針を転換。

1998

家プロジェクト開始 (3月)

直島の本村地区において、サイトスペシフィック・ワークの発展形の試みとしてスタートした「家プロジェクト」の第1弾「角屋」を公開。

2001

「スタンダード」展 (10周年企画)

直島コンテンポラリーアートミュージアム10

周年企画として、島全体のさまざまな家や施設、路地を舞台とした展覧会「スタンダード」展を開催。

2004

地中美術館 開館 (7月)
「ベネッセアートサイト直島」スタート

直島におけるベネッセの活動の総称として「ベネッセアートサイト直島」の名称を導入。7月に地中美術館を開館し、自然、アート、建築の融合による新たな美術館像を提示。直島の中核施設となる。

2006

ベネッセハウス パーク、ビーチ OPEN (5月)、「直島スタンダード2」展

2001年に開催された「スタンダード」展以来5年ぶりの企画展を開催。(10月～2007年4月)

2007

家プロジェクト7軒公開開始 (9月)

2008

犬島精錬所美術館 開館 (4月)

直島でのアート活動を礎に、犬島(岡山県)にて近代化産業遺産である犬島製錬所の遺構を保存・再生した美術館を開館。「遺産・建築・現代アート・環境」による新たな地域創造を提示。

2009

直島銭湯「I♥湯」営業開始 (7月)

実際に入浴できる美術施設として「直島銭湯「I♥湯」(アイラヴユ)」の営業を開始。運営はNPO法人直島町観光協会が担うなど、地域との協働の新たな一歩を踏み出す。

2010

「瀬戸内国際芸術祭2010」開催協力
李禹煥美術館 開館 (6月)
犬島「家プロジェクト」開始、第1期公開 (7月)
心臓音のアーカイブ 開館 (7月)
豊島美術館 開館 (10月)

第1回となる「瀬戸内国際芸術祭2010」に開幕に合わせ、直島、豊島、犬島に新たに4つの美術施設・プロジェクトを開設。芸術祭には、国内外から延べ約93万人の人々が訪れた。

2011

ベネッセアートサイト直島20周年企画「生成 (SEISEI)」(11月～2012年7月)

ベネッセハウスが2012年7月にオープン20年を迎えることを記念し、ベネッセアートサイト直島の足跡を振り返る連続トークイベント「生成 (SEISEI)」を開催。

2013

「瀬戸内国際芸術祭2013」開催協力
ANDO MUSEUM開館 (3月)
犬島「家プロジェクト」第2期公開 (3月)
豊島横尾館 開館 (7月)
宮浦ギャラリー六区 開館 (7月)

第2回となる「瀬戸内国際芸術祭2013」の開催に合わせ、直島、豊島、犬島で新たな4つのプロジェクトを展開。犬島の犬島「家プロジェクト」では、2つのギャラリーを新設し、第2期公開として5人の作家作品を展示。

2014

犬島「家プロジェクト」第3期展示開始 - 「I邸」新作公開 (3月)

「瀬戸内国際芸術祭2016」に向けた犬島「家プロジェクト」第3期展示として、「I邸」において作家・小牟田悠介氏による新作を公開。

2015

犬島「家プロジェクト」第3期展示 「C邸」新作公開 (3月)

「I邸」に続き、「C邸」において作家・下平千夏氏による新作を公開。

*瀬戸内国際芸術祭

直島、豊島、犬島をはじめとする瀬戸内の島々で展開する現代アートの祭典(主催:香川県瀬戸内国際芸術祭実行委員会)。第1回は2010年に7つの島と高松港で、第2回は2013年に12の島と高松港、宇野港で開催。ベネッセアートサイト直島(ベネッセホールディングス、福武財団)は構成団体の一つとして協力しています。

各施設所在地

直島 Naoshima

ベネッセハウス

〒761-3110 香川県香川郡直島町琴弾地
Tel: 087-892-3223

家プロジェクト

〒761-3110 香川県香川郡直島町本村地区
Tel: 087-892-3223 (ベネッセハウス)

地中美術館

〒761-3110 香川県香川郡直島町3449-1
Tel: 087-892-3755

直島銭湯「I♥湯」

〒761-3110 香川県香川郡直島町2252-2
Tel: 087-892-2626 (直島町観光協会)

李禹煥美術館

〒761-3110 香川県香川郡直島町字倉浦1390
Tel: 087-892-3754 (福武財団)

ANDO MUSEUM

〒761-3110 香川郡直島町736-2
Tel: 087-892-3754 (福武財団)

宮浦ギャラリー六区

〒761-3110 香川県直島町2310-77
Tel: 087-892-3754 (福武財団)

豊島 Teshima

豊島美術館

〒761-4662 香川県小豆郡土庄町豊島唐櫃607
Tel: 0879-68-3555

心臓音のアーカイブ

〒761-4662 香川県小豆郡土庄町豊島唐櫃2801-1
Tel: 0879-68-3555 (豊島美術館)

豊島横尾館

〒761-4661 香川県小豆郡土庄町豊島家浦2359
Tel: 0879-68-3555 (豊島美術館)

犬島 Inujima

犬島精錬所美術館

犬島「家プロジェクト」

シーサイド犬島ギャラリー

〒704-8153 岡山県岡山市東区犬島327-4
(犬島精錬所美術館)
Tel: 086-947-1112

アーティスト&建築家プロフィール

安藤忠雄 (あんどう・ただお)

1941年大阪生まれ。建築家、東京大学名誉教授。1969年安藤忠雄建築研究所設立。ブリツカー賞(1995)、UIA(国際建築家連合)ゴールドメダル(2005)、文化勲章(2010)、芸術文化勲章コマンドゥール(フランス、2013年)をはじめ国内外で受賞多数。代表作:「住吉の長屋」(1976年、大阪)、「光の教会」(1989年、大阪)など。ベネッセアートサイト直島では、直島において「ベネッセハウスミュージアム」(1992)、「地中美術館」(2004)、「ANDO MUSEUM」(2013)など、8施設の建築設計を手掛ける。

ウォルター・デ・マリア

1935-2013年。カリフォルニア州オルバニー生まれ。代表作:「ライトニング・フィールド」(1977年、ニューメキシコ)、「ニューヨーク・アース・ルーム」(1977年、ニューヨーク)、「ブロークン・キローメーター」(1979年、ニューヨーク)など。ベネッセアートサイト直島では、直島において「見えて/見えず 知って/知れず」(2000)、「タイム/タイムレス/ノー・タイム」(2004、地中美術館)の作品を恒久設置。

大竹伸朗 (おおたけ・しんろう)

1955年、東京生まれ。1980年代初頭より国内外で作品発表を開始。近年は、第8回光州ビエンナーレ(2010年、韓国)、ドクメンタ(13)(2012年、ドイツ)、第55回ヴェネチア・ビエンナーレ(2013年、イタリア)などの国際展に参加。ベネッセアートサイト直島での主な作品は、1994年に発表された「シッパード・ワークス」ほか、家プロジェクト「はいしゃ」<舌上夢/ポッコン覗>(2006年、直島)、直島銭湯「I♥湯」(2009年、直島)。瀬戸内国際芸術祭2013に参加し、女木島にて「女根/めこん」を発表。

クリスチャン・ホルタンスキー

1944年パリ生まれ。映像、写真、絵画、彫刻、マルチメディア・インスタレーションなど、多彩な表現方法で「生と死」の問題を扱う。自身の過去の再現を試みるほか、ビスケット缶、キャンドル、また何千枚もの写真、古着、名前などを用いて、無名の個人を記憶に留め、人間存在の重要さと儚さ、消滅を表現する。各国の主要美術館で展示を行い、ドクメンタ(72、77)、ヴェネチア・ビエンナーレ(76、80、93、95、2011)、越後妻有トリエンナーレ(2000、03、06、09、12)など国際展にも多数参加。

クロード・モネ

1840年パリ生まれ。1883年に移り住んだジヴェルニーに「水の庭園」と呼んだ睡蓮の池とそれを囲む庭を自ら造園し、それらをモチーフに生涯描き続けた。1926年ジヴェルニーの自宅で86歳の生涯を終える。1927年5月17日、「睡蓮」を展示するオランジュリー美術館が開かれる。代表作:「印象:日の出」、「積み藁」、「ルーアン大聖堂」。

三分一博志 (さんぷいち・ひろし)

1968年生まれ。建築家。東京理科大学理工学部建築学科卒業。小川晋一アトリエを経て、三分一博志建築設計事務所設立。カナダグリーンデザイン賞最優秀賞(Running Green Project、カナダ)、2003年新建築賞(エアハウス)、2005年Detail Prize 2005 SPECIAL Prize(三輪寮、ドイツ)、2010年日本建築大賞(犬島精錬所美術館、岡山)受賞。

ジェームズ・タレル

1943年アメリカ生まれ。1965年ボモナカレッジで知覚心理学と数学の学士号を取得。1965~66年カリフォルニア大学アーバイン校大学院にて美術史を学ぶ。1973年クレアモント大学院芸術修士号取得。1979年ローデン・クレータープロジェクト着工。代表作:「ローデン・クレーター」(1979年〜、アリゾナ)、「スカイスペース」(1986年、PS.1、ニューヨーク)、「バックサイド・オブ・ザ・ムーン」(1999年、家プロジェクト「南寺」、直島)、「光の館」(2000年、新潟)。

杉本博司 (すぎもと・ひろし)

1948年東京生まれ。ロサンジェルスのアートセンター・カレッジ・オブ・デザインで写真を学ぶ。1974年よりニューヨーク在住。代表作に自然史博物館のジオラマを撮影した「ジオラマ」シリーズ(1976年〜)、世界各地の海を撮影した「海景」シリーズ(1980年〜)など。2002年、直島・家プロジェクト「護王神社」完成。建築に造詣が深く、現在、建築事務所「新素材研究所」代表。

須田悦弘 (すだ・よしひろ)

1969年山梨生まれ。多摩美術大学グラフィックデザイン科卒業。主な展覧会に、1993年「銀座雑草論」(銀座1~4丁目パーキングエリア)、2004年「須田悦弘展」(パレ・ド・トーキョー・パリ)、2006年「須田悦弘展」(丸亀市猪熊弦一郎現代美術館)。ベネッセアートサイト直島では、2001年「スタンダード」、2006年〜07年「直島スタンダード2」に参加。2002年ベネッセハウスミュージアムにて「雑草」、2006年には家プロジェクト「基会所」を制作。

妹島和世 (せじま・かずよ)

1956年茨城生まれ。建築家。伊東豊雄建築設計事務所を経て1987年妹島和世建築設計事務所設立。1995年西沢立衛と共にSANAA設立。2010年ブリツカー賞受賞*。代表作に「金沢21世紀美術館」(2004年、石川)*、「海の駅おしま」(2006年、直島)*、「ニューミュージアム」(2007年、ニューヨーク・アメリカ)*、「犬島「家プロジェクト」」(2010年、犬島)、「ROLEX ラーニングセンター」(2010年、スイス)*、「ルブル＝ランス」(2012年、フランス)*など(*はSANAA)。2015年、犬島「家プロジェクト」が第28回村野藤吾賞を授賞。

千住博 (せんじゅ・ひろし)

1958年東京生まれ。東京藝術大学大学院博士課程修了。現在、京都造形芸術大学学長、ニューヨーク在住。1995年第46回ヴェネチア・ビエンナーレにおいて「ウォーター・フォール」(滝シリーズ)を発表(日本館)。2002年大徳寺聚光院別院襖絵(静岡)、2006年家プロジェクト「石橋」倉にて「ザ・フォールズ」を公開。約15年に及ぶ滝シリーズの制作を経て、2009年には家プロジェクト「石橋」母屋において崖シリーズの1作目となる「空の庭」を公開。

内藤礼 (ないとう・れい)

1961年広島生まれ。1985年武蔵野美術大学造形学部視覚伝達デザイン学科卒業。ベネッセアートサイト直島におけるパーマナント作品:「このことを」(2001年、家プロジェクト「きんざ」、直島)、「母型」(2010年、豊島美術館、豊島)。主な展覧会:「地上にひとつの場所を」(1997年、第47回ヴェネチア・ビエンナーレ日本館、イタリア)、「すべて動物は、世界の内にちょうど水の中に水があるように存在している」(2009年、神奈川県立近代美術館、鎌倉)。

永山祐子 (ながやま・ゆうこ)

1975年東京生まれ。建築家。青木淳建築計画事務所勤務を経て、2002年永山祐子建築設計設立。主な仕事に、「LOUIS VUITTON 京都大丸店」(2004年、京都)、「丘のある家」(2006年、東京)、「カバヤ珈琲」(2009年、東京)、「木屋旅館」(2012年、愛媛)。ベネッセアートサイト直島では、豊島にて「豊島横尾館」(2013年、香川)の建築設計を手掛ける。2015年、豊島横尾館において「日本建築家協会優秀建築選」2014年度JIA新人賞を受賞。

西沢大良 (にしざわ・たいら)

1964年東京生まれ。建築家。1987年東京工業大学卒業。1987-93年入江経一建築設計事務所を経て1993年西沢大良建築設計事務所設立。2005年AR-AWARDS 最優秀賞、2006年JIA新人賞などを受賞。代表作に、「砥用町林業総合センター」(2004年、砥用)、「駿府教会」(2008年、静岡)、「沖縄KOKUJIKAN」(2006年～2010年、那覇)、「今治港再生都市計画」(2009年～、今治)、「富浦ギャラリー六区」(2013年、直島)など。

西沢立衛 (にしざわ・りゅうえ)

1966年東京生まれ。建築家。1990年妹島和世建築設計事務所入所。1995年妹島和世とSANAAを設立後、1997年西沢立衛建築設計事務所を設立。2010年プリツカー賞を受賞*。代表作に「森山邸」(2005年、東京)、「十和田市現代美術館」(2008年、青森)、「豊島美術館」(2010年、香川)、「ROLEXラーニングセンター」(2010年、スイス)*、「ループ＝ランス」(2012年、フランス)*など(*はSANAA)。2011年、豊島美術館が第25回村野藤吾賞を授賞。

長谷川祐子 (はせがわ・ゆうこ)

兵庫県生まれ。京大法学部卒業後、東京藝術大学大学院美術研究科修士課程修了。金沢21世紀美術館学芸課長(1999-2005)、芸術監督(2005-2006)を経て、2006年4月より東京都現代美術館チーフキュレーター、多摩美術大学芸術学科教授。イスタンブール・ビエンナーレ総合コミッショナー(2001)、第4回上海ビエンナーレ・コ・キュレーター(2002)、第50回ヴェネチア・ビエンナーレ日本館コミッショナー(2003)を務める。

宮島達男 (みやじま・たつお)

1957年東京生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻修了。現在、東北芸術工科大学副学長。1980年代半ばから1から9までの数字によるLEDのデジタルカウンターを使用した作品を発表し国際的な評価を得る。1988年にヴェネチア・ビエンナーレのアハルト部門への参加を皮切りに、国内外での重要な現代美術展に多数参加。1998年、ベネッセアートサイト直島において家プロジェクト「角屋」を制作。

森万里子 (もり・まりこ)

現在NY在住。ビデオインスタレーション「ニルヴァーナ」で1997年第47回ヴェネチア・ビエンナーレ優秀賞受賞。主な展覧会に「Mariko Mori: Dream Temple」(1999年、ブラダ財団・イタリア)、「ピュアランド」(2002年、東京都現代美術館)、「WAVE UFO」(2003年、ブレゲンツ美術館・オーストリア)。また、六本木ヒルズにパブリックアート「プラントオパール」(2009年)、豊島(香川)に「トムナフリ」(2010年)が設置されている。

柳幸典 (やなぎ・ゆきのり)

1959年生まれ。イェール大学大学院修了。第45回ヴェネチア・ビエンナーレ、アハルト部門受賞(1993)、第6回五島記念文化財団美術新人賞受賞(1995)。広島市立大学芸術学部准教授。サンパウロ・ビエンナーレ(1996)、光州ビエンナーレ(2000)など多数の国際展から招待される。1992年のベネッセハウスでの個展が契機となり瀬戸内海の多島美に触発され、1995年に島全体をアートサイトにする犬島プロジェクトを構想する。

横尾忠則 (よこお・ただのり)

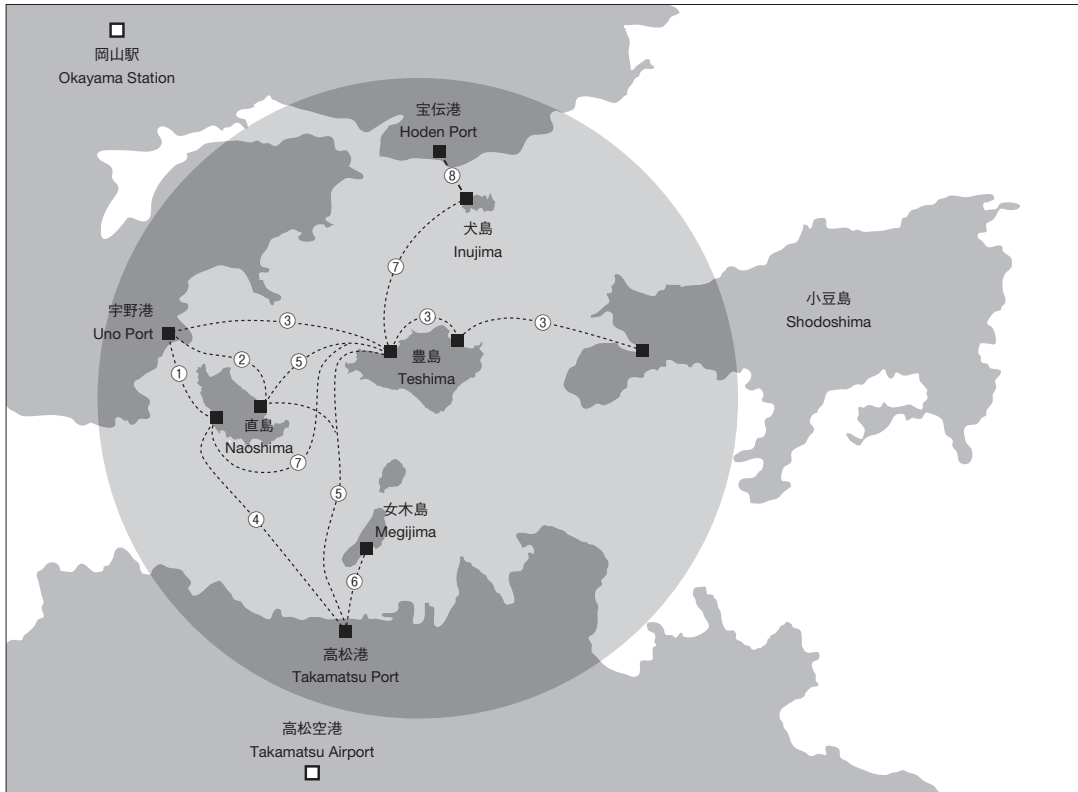
1936年兵庫県生まれ。パリ、ヴェネチア、サンパウロなど各国のビエンナーレに招待出品。国内外の美術館で多数の個展を開催。ニューヨーク近代美術館個展(1972年、アメリカ)、カルティエ現代美術財団個展(2006年、フランス)、金沢21世紀美術館個展(2009年、石川)、瀬戸内国際芸術祭(2010年、豊島)など。2012年 神戸に県立横尾忠則現代美術館、2013年 豊島(香川県)に豊島横尾館が開館。

李禹煥 (リ ウファン)

1936年大韓民国慶尚南道生まれ。1956年来日。1961年日本大学文学部哲学科卒業。多摩美術大学名誉教授。世界文化賞絵画部門受賞(2001)。主な展覧会:「Lee Ufan」展(2001年、ボン市立美術館、ドイツ)、「李禹煥 余白の芸術」展(2005年、横浜美術館)、「Resonance」展(2007年、ヴェネチア・ビエンナーレ、イタリア)、「LEE UFAN」展(2008年、ブリュッセル王立美術館、ベルギー)、「無限の提示」(2011年、グッゲンハイム美術館、アメリカ)。

(ベネッセハウス、犬島「家プロジェクト」の作家を除く)
※50音順

島へのアクセス



アクセス

【主要都市から岡山・高松へのアクセス】

・東京方面から

JR_東京駅→岡山駅(約3時間30分)

飛行機+バス_羽田空港→岡山空港(約1時間20分)、

岡山空港→岡山駅(バスで約30分)

飛行機+バス_羽田空港→高松空港(約1時間20分)

高松空港_高松駅(バスで約40分)

・大阪方面から

JR_関西国際空港→新大阪駅(約1時間)、新大阪駅→岡山駅(約1時間)

・名古屋方面から

JR_中部国際空港→名古屋駅(約30分)、名古屋駅→岡山駅(約1時間50分)

・福岡方面から

JR_福岡空港→博多駅(約5分)、博多駅→岡山駅(約2時間)

【岡山・高松から港へのアクセス】

・岡山から

直島、豊島へ_岡山駅→宇野港 JR、バスで約50分

犬島へ_岡山駅→宝伝港 バスで約1時間10分

・高松から

直島、豊島、犬島へ_高松駅→高松港 徒歩で約5分

※所要時間は道路状況によって前後する場合があります

【島へのアクセス】

・宇野港から直島へ

宇野港↔直島(宮浦港)①

宇野港↔直島(本村港)②

・宇野港から豊島、小豆島へ

宇野港↔豊島(家浦港)↔豊島(唐櫃港)↔小豆島(土庄港)③

・高松港から直島へ

高松港↔直島(宮浦港)④

・高松港から直島、豊島へ

高松港↔直島(本村港)↔豊島(家浦港)、高松港↔豊島(家浦港)⑤

・高松港から女木島へ

高松港↔女木島⑥

・直島から豊島・犬島へ

直島(宮浦港)↔豊島(家浦港)↔犬島港⑦

・宝伝港から犬島へ

宝伝港↔犬島港⑧

取材に関するお申し込み・お問い合わせ

ベネッセアートサイト直島の各施設に関する取材・広報画像借用のお申し込み、お問い合わせは、ベネッセアートサイト直島WEBサイトより受け付けています。

※原則として、各種媒体へのご掲載の際は公式画像・公式映像をご使用ください。
※撮影趣旨・企画内容によってはご遠慮いただく場合がございますので予めご了承ください。
(観光地としてのご紹介はお断りさせていただいております)

ベネッセアートサイト直島 プレスページ

www.benesse-artsite.jp/contact/press.html

お問い合わせ

【ベネッセホールディングス運営のプロジェクト】

｜直島…ベネッセハウス、家プロジェクト

株式会社ベネッセホールディングス ベネッセアートサイト直島 広報担当

住所：〒761-3110 香川県香川郡直島町850-2

Tel: 087-892-2887 Fax: 087-840-8277

BASN-press@mail.benesse.co.jp

【福武財団運営のプロジェクト】

直島…地中美術館、直島銭湯「I♥湯」、李禹煥美術館、ANDO MUSEUM、
宮浦ギャラリー六区、直島コメづくりプロジェクト

豊島…豊島美術館、心臓音のアーカイブ、豊島横尾館

犬島…犬島精錬所美術館、犬島「家プロジェクト」、シーサイド犬島ギャラリー

女木島…女根／めこん

公益財団法人 福武財団 広報担当

住所：〒761-3110 香川県香川郡直島町850

Tel: 087-892-2550 Fax: 087-892-4466

press@fukutake-artmuseum.jp

ベネッセアートサイト直島

Benesse Art Site Naoshima

www.benesse-artsite.jp

Benesse
Art Site
Naoshima

2015 4.1

Naoshima

直島

ベネッセハウス

家プロジェクト

地中美術館

李禹煥美術館

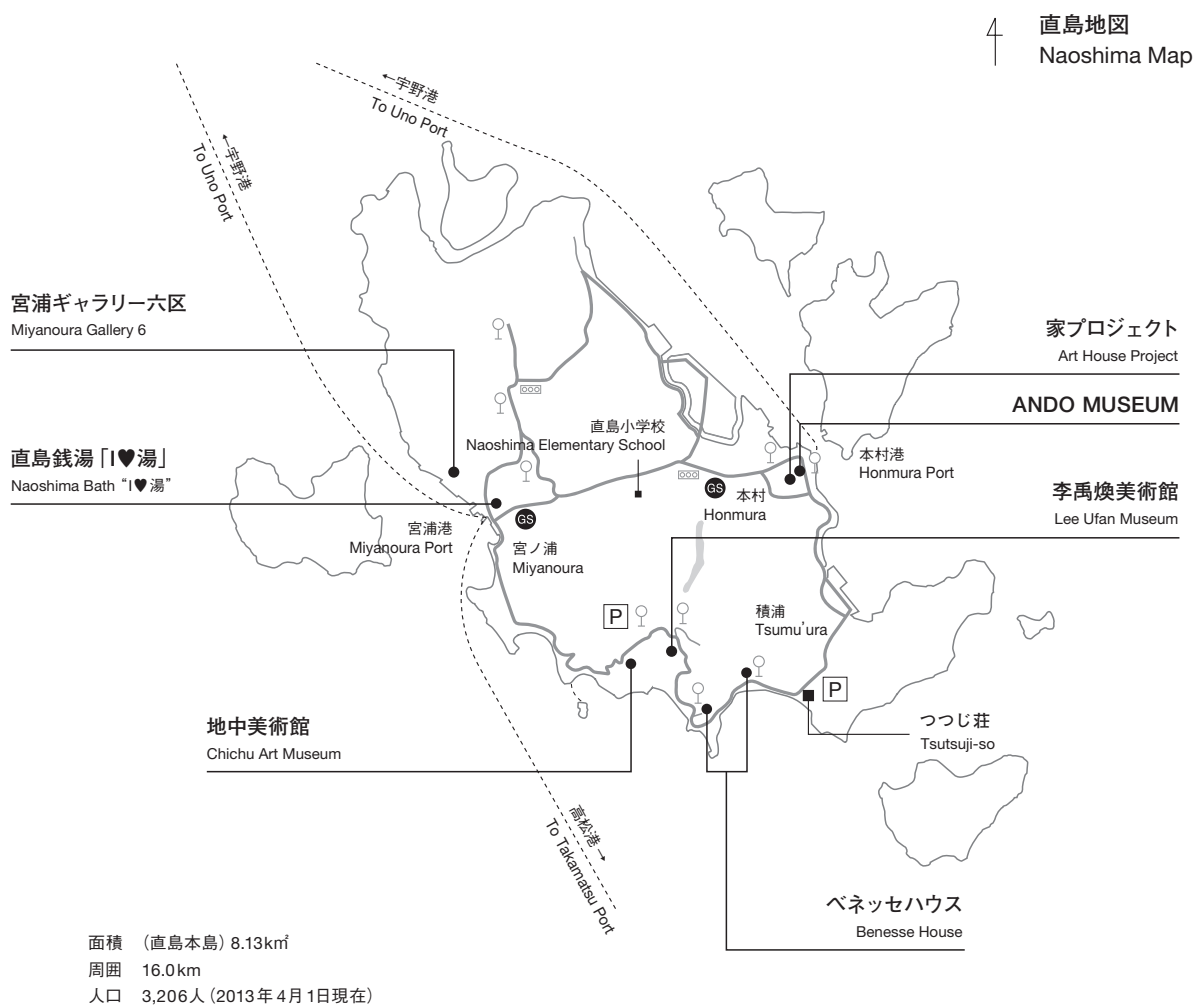
直島銭湯「I♥湯」

ANDO MUSEUM

宮浦ギャラリー六区

Map

直島周辺地図



Benesse House

ベネッセハウス

ベネッセハウスは「自然・建築・アートの共生」をコンセプトに、美術館とホテルが一体となった施設として、1992年に開館しました。「ミュージアム」、「オーバル」(1995年)、「パーク」「ビーチ」(いずれも2006年)の4棟からなり、すべて安藤忠雄の設計によるものです。美術館部分にあたる「ミュージアム」は、島の南の高台に瀬戸内海を望んで建てられており、外に向かって大きく開かれた構造をもっているため、室内にいても常に外部の自然を感じることができます。

Museum ミュージアム

ここでは直島の自然と安藤忠雄設計の建築という場所の特性をとりこみ、アーティストたちがその場所のために制作したサイトスペシフィック・ワークを永久展示しています。作品は展示スペースにとどまらず、館内のいたるところに設置され、施設をとりまく海岸線や林の中にも点在しています。直島の自然と時間のなかでゆっくりと滞在してアートを鑑賞していただくことができます。

Hotel ベネッセハウス 宿泊のご案内

ゲストルームは、「ミュージアム」に加え、「ミュージアム」からモノレールで移動する高台にある「オーバル」、海辺に開けた「パーク」「ビーチ」の4つの棟からなり、計65室の客室を備えています。「パーク」「ビーチ」は安藤忠雄の設計としては数少ない木造2階建てで、周囲の林にとけこむような姿をとり、さらにリサイクルしやすい集成材を使うなど、環境に対する配慮もなされています。

ゲストルーム

	室数	通常シーズン料金	ハイシーズン料金
ミュージアム	10 (スイート2室含む)	38,016円～	43,956円～
オーバル	6 (スイート2室含む)	53,460円～	59,400円～
パーク	41 (スイート2室含む)	32,076円～	38,016円～
ビーチ	8 (全室スイート)	71,280円～	77,220円～

※料金は1室2名様利用時の室料。税・サービス料込み。

※ハイシーズン料金は、祝休前日、ゴールデンウィーク、7月20日～8月31日、年末年始。

※ミュージアム・オーバルに関しては、ゆったりと過ごしていただくコンセプトから

小学生未満のお子様のご利用はご遠慮いただいています。

※オーバルは、オーバル宿泊者専用のスペースです。

所在地 〒761-3110 香川県香川郡直島町琴弾地

予約・問い合わせ

Tel: 087-892-3223 (受付時間9:00～20:00) Fax: 087-892-2259

Mail: naoshima@mail.benesse.co.jp HP: <http://www.benesse-artsite.jp/benessehouse/>

Restaurant & Cafe レストラン & カフェ

ミュージアムレストラン 日本料理 一扇

ベネッセハウスミュージアム内にあるレストラン。落ち着いた雰囲気の中でゆったりとお食事を楽しめるメインダイニング。瀬戸内の海の幸を素材にした和食(会席料理)を中心に、季節感溢れるメニューをご用意。

[利用案内]

営業時間 朝食 7:30～9:30 昼食 11:30～14:30(ラストオーダー 14:00)
夕食 18:00～19:45 / 20:00～21:45(二部制)
※夕食メニューは完全予約制。 ※夕食のみ小学生未満のお子様のご利用はご遠慮いただいています。

定休日 年中無休

場所 ベネッセハウスミュージアムB1F

席数 32席

料金 朝食 ¥2,494(和朝食/洋朝食) 昼食 ¥2,000～
夕食 ¥7,722、¥9,504、¥13,068(いずれも会席料理)ほか
※昼食でも一部予約の必要なメニューあり。

ミュージアムカフェ

ベネッセハウスミュージアム内にあるカフェ。軽食やソフトドリンクのほかビールもご用意。お天気のよい日には、テラス席でお寛ぎいただけます。

[利用案内]

営業時間 10:00～17:00(ラストオーダー 16:30)

定休日 年中無休

場所 ベネッセハウスミュージアム2F

席数 30席

Shop ショップ

ミュージアムショップ

ベネッセハウスミュージアムカフェに併設するショップ。直島で行われた展覧会のカタログのほか、展示作品やアーティストに関する書籍や写真集、グッズなどを扱っています。

[利用案内]

営業時間 10:00～17:00

定休日 年中無休

場所 ベネッセハウスミュージアム2F

ベネッセハウスショップ

ベネッセハウスパークに隣接したショップ。ベネッセアートサイト直島に関連した書籍やグッズのほか、ベネッセハウスのロゴ入りタオルやアメニティなどのホテルグッズ、直島のおみやげなど、幅広くさまざまな商品を取り揃えています。

[利用案内]

営業時間 8:30～19:00

定休日 年中無休

場所 ベネッセハウス テラスレストラン横

テラスレストラン 海の星 Etoile de la mer

ベネッセハウスパーク棟に隣接するレストラン。瀬戸内の青い海を目前に、素材本来の味をそのままお皿に盛り込んだ料理をお楽しみいただけるレストランです。その日に入手できる四国、瀬戸内海ならではの新鮮な食材を使用するため、お料理の内容が日によって変わります。2010年4月からは、タテルヨシノ(東京)オーナーシェフ吉野建をアドバイザーとして招聘しています。

[利用案内]

営業時間 朝食 7:30～9:30
夕食 18:00～(ラストオーダー 21:00)

定休日 年中無休

場所 ベネッセハウスパーク棟隣接

席数 90席

料金 朝食 ¥2,613(ビュッフェ)
夕食 ¥9,504(テロワール)、¥13,068(デギュスタシオン)
※夕食はアラカルトもございます。

パークラウンジ

宿泊のお客様専用のラウンジスペース。コーヒー、紅茶、ハーブティーなどがセルフサービスにてご自由にお楽しみいただけます。

[利用案内]

営業時間 8:00～23:00

定休日 年中無休

場所 ベネッセハウスパーク

席数 36席

Spa スパ

Benesse House SPA The Theatre by Natura Bissé

Benesse House SPA The Theatre by Natura Bisséでは、直島でしかご体感いただけない、ここだけの時間を提供いたします。トリートメントを通じて五感を呼び覚まし、直島の一日を表現した音楽の流れに身を委ねることで、ご自身が舞台の上で演じているかのようなアーティストティックな体験に導いていきます。

[利用案内]

営業時間 15:00～23:00(最終受付 22:00)

定休日 毎週水曜日(ゴールデンウィーク・夏季・年末年始は営業)

[予約・お問合せ]

ベネッセハウス Tel: 087-892-3223(受付時間 9:00～20:00)

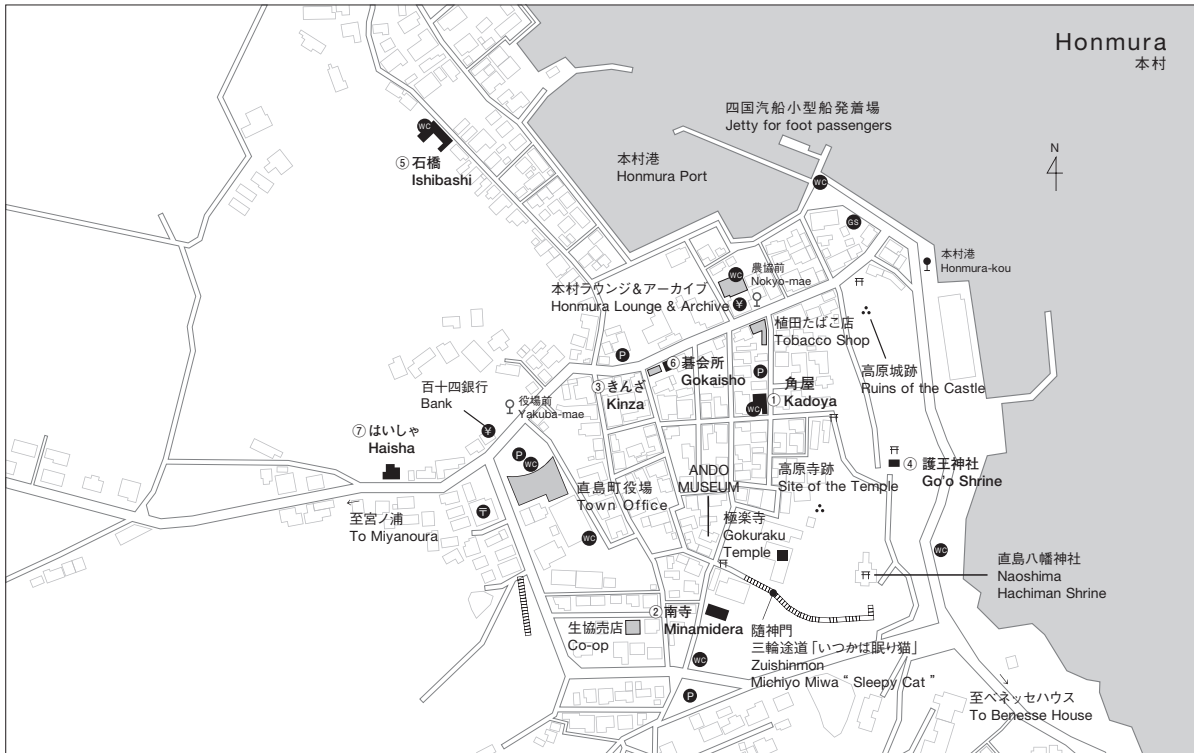
Art House Project

家プロジェクト

家プロジェクトは、直島の本村地区を舞台とした常設のアートプロジェクトです。古い家屋の改修の域を越え、アーティストが家の空間そのものを作品化したものであり、それぞれの建物、ひいてはそこで営まれていた生活や日本の伝統、美意識に対峙した空間が形づくられています。そして、完成後の作品を温かく見守ってくださる住民の方々の協力も得て、家プロジェクトは、アートと建築、そして地域とのコラボレーションによって、「場」の新たな力を生起させるプロジェクトになりつつあります。現在までに7軒が展開されています。

Art Works 作品紹介

- | | |
|---|---------------------------|
| ① 角屋 1998 [アーティスト] 宮島達男 | ④ 護王神社 2002 [アーティスト] 杉本博司 |
| ② 南寺 1999 [アーティスト] ジェームズ・タレル
[建築] 安藤忠雄 | ⑤ 石橋 2006 [アーティスト] 千住博 |
| ③ きんざ 2001 [アーティスト] 内藤礼 | ⑥ 碁会所 2006 [アーティスト] 須田悦弘 |
| | ⑦ はいしゃ 2006 [アーティスト] 大竹伸朗 |



Honmura Lounge & Archive 本村ラウンジ&アーカイブ

ベネッセアートサイト直島プロジェクトに関わりのあるアーティストや建築家の書籍や資料を収集・公開しています。
また、関連グッズや書籍、家プロジェクトの鑑賞チケットなどを販売する本村ラウンジストアも併設されています。

[利用案内]

営業時間 10:00 ~ 16:30

定休日 月曜日（祝日の場合は開館、翌日休館）

場所 香川県香川郡直島町 850-2

[建築]

空間デザイン：西沢立衛

[鑑賞できる関連作品]

レオ・ヴィラリアル「チェイシング・レインボー」2004

杉本博司「護王神社」2002

アンジュ・レッチア「Seven Islands」2012



家プロジェクトメモブロック ¥1,234



家プロジェクトトートバッグ ¥1,954

Chichu Art Museum

地中美術館 アート：クロード・モネ、ウォルター・デ・マリア、ジェームズ・タレル 建築：安藤忠雄

地中美術館は、「自然と人間を考える場所」として2004年に設立されました。クロード・モネ、ウォルター・デ・マリア、ジェームズ・タレルの作品が安藤忠雄設計の建物に恒久設置されています。瀬戸内の美しい景観を損なわないよう建物の大半が地下に埋設されたこの美術館は、地下でありながら自然光が降り注ぎ、一日を通して、また四季を通して作品や空間の表情が刻々と変わります。

Cafe & Store カフェ & ストア

地中カフェ

瀬戸内の美しい風景が一望できるカフェです。解放された空間で改めて自然を感じることができるよう、屋外スペースも設けています。鑑賞体験の最後を締めくくるにふさわしい豊かな時を提供しています。メニューには、コーヒーや紅茶などのドリンクのほか、軽食や、モネの愛したバナナアイスも揃えています。

【利用案内】

営業時間 10:30~17:45 (ラストオーダー17:30) / 3月1日~9月30日
10:30~16:45 (ラストオーダー16:30) / 10月1日~2月末日
定休日 施設に準じます
席数 36席

【問い合わせ】

Tel: 087-892-2558 (地中カフェ直通)

地中ストア

地中美術館内のミュージアムショップ。当館の刊行書籍、美術・建築関連書籍の他、地中美術館限定のオリジナル商品として、ポストカードやステーションナリーも取りそろえています。店舗内にある木の椅子やテーブルなどインテリアデザインは安藤忠雄氏の手掛けました。地中美術館内の店舗です。ご来館の際は是非お立ち寄りください。



右／書籍「地中ハンドブック」 ¥1,029 (税込)
中／書籍「地中美術館」 ¥1,954 (税込)
左／「Becoming」 ¥5,184 (税込)

「Becoming」は2013年に刊行された、ベネッセアートサイト直島の歴史、作品、建築などがくわしく紹介された書籍です。また「地中ハンドブック」は地中美術館の建築と作品について図版とともに詳しく解説した公式ガイドブックです。



クリアファイル A5 サイズ 各 ¥411 (税込)

安藤忠雄氏の地中美術館設計図面と祖父江慎氏の美術館ロゴマークをモチーフにしたA5サイズのクリアファイルです

Lee Ufan Museum

李禹煥美術館 アート：李禹煥 建築：安藤忠雄

李禹煥美術館は、1970年前後の「もの派」と呼ばれる日本の現代美術運動の中心的作家であり、世界的評価の高いアーティスト・李禹煥（リウファン）の初の個人美術館です。海と山に囲まれた、なだらかな谷あいにあるこの美術館は、安藤忠雄による設計で、自然の地形を生かした建物になっています。屋外の広場と館内では、李禹煥の70年代から現在に至るまでの絵画や彫刻をご鑑賞いただけます。

Store ストア

李禹煥美術館ストア

李禹煥美術館内に併設するミュージアムショップです。「日常生活の中に李禹煥の作品を取り入れることで、ゆっくり時間をかけて鑑賞体験を深めていく」をテーマに、アーティストに関する書籍とオリジナルグッズを取りそろえています。



写真左／カタログ「李禹煥美術館」 ¥3,086（税込）

写真中／書籍「時の震え」 ¥4,104（税込）

写真右／書籍「余白の芸術」 ¥4,860（税込）

当館オリジナルのカタログには作品図版、李禹煥氏のバイオグラフィーなどを収録しています。氏の作品観・芸術観を感じていただけるエッセイ集もご用意しています。



オリジナル長袖Tシャツ ¥4,629（税込）

「対話」の作品をモチーフにした長袖Tシャツです。女性用七分袖 ¥4,200（税込）もご用意しています。

Naoshima Bath “I♥湯”

直島銭湯「I♥湯」 アート：大竹伸朗 デザイン・設計協力：graf 運営：NPO 法人 直島町観光協会

直島銭湯「I♥湯」(アイラヴユ)は、アーティスト・大竹伸朗による実際に入浴できる美術施設です。大竹が得意とするスクラップブックの手法が随所に取り入れられています。これまで直島で取り組んできたアートプロジェクトが島民の方々に支えられてきたことへの感謝の気持ちから始まったこのプロジェクトは、島民の方々の活力源として、また国内外から訪れるお客様と直島島民との交流の場となっています。

Bandai 番台

直島銭湯「I♥湯」番台

入口に入っすぐの番台では、大竹伸朗氏デザインのオリジナルグッズを取りそろえています。手ぶらでお越しの方も入浴できる「お風呂セット」やタオル類、湯上がり着にぴったりのオリジナルTシャツなどをご用意しています。



オリジナル半袖Tシャツ ¥4,110 (税込)

大竹伸朗氏が手がけた銭湯のロゴを前面と背面にあしらったTシャツです。



オリジナルロゴ入りタオル 各¥310 (税込)

大竹伸朗氏が手がけた銭湯のロゴを入れたタオルです。お土産にどうぞ。

ANDO MUSEUM

制作：安藤忠雄

約25年前から直島で多くの美術施設の建築を手がけてきた安藤忠雄のミュージアム。本村地区の集落にある民家の外観はそのままに、内部はコンクリートの新しい空間となる二重構造になっています。これまで安藤が手がけてきたさまざまな建築の要素を集約し、建物自体も作品となるミュージアムです。館内では、直島の歴史や安藤建築の歴史を写真、スケッチ、模型などにより紹介しています。

Store ストア

ANDO MUSEUM ストア

安藤忠雄に関する書籍や、オリジナルグッズを販売しています。安藤忠雄直筆のサインやドローイングの入った商品も取りそろえています。



書籍「TADAO ANDO Insight Guide」 ¥2,880 (税込)

国内外の安藤建築を本人の言葉とスケッチや写真で紹介した書籍です。安藤忠雄直筆ドローイング付き。



直島カードセット／

地中美術館カードセット(各6枚入) 各¥800 (税込)

直島の安藤忠雄の建築や、地中美術館の写真を6枚綴りのカードセットです。安藤忠雄直筆のサイン入り。

Miyanoura Gallery 6

宮浦ギャラリー六区 建築家：西沢大良

宮浦ギャラリー六区は、宮ノ浦地区に設置されたギャラリー。建築家・西沢大良により、かつて島民が娯楽を求めて行き交っていた「パチンコ999（スリーナイン）」が、隣接する公園とともに、島内外の人々が集う新たな憩いの場として生まれ変わりました。様々な企画をする場として活用していく予定です。

※宮浦ギャラリー六区は、企画開催時のみ開館しています。企画の開催時期等については、ホームページをご覧ください。
<http://www.benesse-artsite.jp/miyanoura-gallery6/index.html>

Facility Information

鑑賞のご案内

・ベネッセハウス ミュージアム

[利用案内]

開館時間 8:00～21:00 (最終入館20:00)
休館日 年中無休
鑑賞料 大人1,030円 (15歳以下無料)
鑑賞時間 約1時間

[所在地・お問い合わせ]

香川県香川郡直島町琴弾地
Tel: 087-892-3223 (受付時間9:00～20:00)

〈予約の必要な作品〉

蔡國強「文化大混浴 直島のためのプロジェクト」

「文化大混浴 直島のためのプロジェクト」は、風水の考えにもとづいて中国産の太湖石とアメリカ製のジャグジーバスが配置され、実際に入浴することができる作品です。また、ジャグジーバスには5種類の漢方薬が入っています。 ※ベネッセハウスにご宿泊の方に限り、入浴を体験できます。

[利用案内]

体験日 水曜日・金曜日・日曜日 (12月1日から2月末日までの冬期は休止)
体験時間 16:00～17:00 (各1回のみ)
※開始時間までにベネッセハウス ミュージアム
フロント前にお集まりください。
体験料金1名につき1,030円
定員 6名まで

・家プロジェクト

[利用案内]

「きんざ」以外の6軒の家プロジェクト
開館時間 10:00～16:30
休館日 月曜日 (月曜が祝日の場合は開館、翌日休館)
鑑賞料金 共通チケット1,030円 (15歳以下無料)
※「きんざ」を除く6軒の鑑賞可能。
ワンサイトチケット410円 (15歳以下無料)
※「きんざ」を除く6軒のうち、1軒のみ鑑賞可能。
鑑賞時間 約1時間30分 (6軒)

〈予約の必要な作品〉

「きんざ」

開館時間 11:00～13:00 14:00～16:30
休館日 月曜日から水曜日 (3月～11月)
月曜日から水曜日 (12月～2月) ※祝日の場合は開館
鑑賞料金 510円 (他の家プロジェクトの鑑賞料金とは別です)
鑑賞方法 お一人様ごとに入館し、
15分間までご鑑賞いただけます。
ご予約 ベネッセアートサイト直島HPをご確認ください。

[所在地・お問い合わせ]

香川県香川郡直島町本村地区
Tel: 087-892-3223 (ベネッセハウス)

・地中美術館

[利用案内]

開館時間 10:00～18:00 (最終入館17:00) 3月1日～9月30日
10:00～17:00 (最終入館16:00) 10月1日～2月末日
休館日 毎週月曜日 (祝日の場合開館、翌日休館)
鑑賞料 2,060円 (15歳以下無料)
鑑賞時間 約1時間30分

[所在地・お問い合わせ]

香川県香川郡直島町3449-1
Tel: 087-892-3755

・李禹煥美術館

[利用案内]

開館時間 10:00～18:00 (最終入館17:30) 3月1日～9月30日
10:00～17:00 (最終入館16:30) 10月1日～2月末日
休館日 地中美術館と同様
鑑賞料 1,030円 (15歳以下無料)
鑑賞時間 約30分

[所在地・お問い合わせ]

香川県香川郡直島町字倉浦1390
Tel: 087-892-3754 (福武財団)
087-892-3755 (団体予約)

・直島銭湯「I♥湯」

[利用案内]

開館時間 平日 14:00～21:00 (最終入湯20:30)
土日祝 10:00～21:00 (最終入湯20:30)
休館日 地中美術館と同様
入浴料 510円 (直島島民は310円)
15歳以下210円

[所在地・お問い合わせ]

香川県香川郡直島町2252-2
Tel: 087-892-2626
(直島町観光協会 受付時間8:30～18:00)

・ ANDO MUSEUM

[利用案内]

開館時間 10:00～16:30 (最終入館16:00)
休館日 毎週月曜日 (祝日の場合開館、翌日休館)
鑑賞料金 510円 (15歳以下無料)
鑑賞時間 約30分

[所在地・お問い合わせ]

香川県香川郡直島町736-2
Tel: 087-892-3754 (福武財団)

・ 宮浦ギャラリー六区

[利用案内]

開館時間 10:00～18:00
休館日 毎週月曜日 (祝日の場合開館、翌日休館)
鑑賞料 企画展により異なります。

[所在地・お問い合わせ]

香川県香川郡直島町2310-77
Tel: 087-892-3754 (福武財団)

※メンテナンスの際、臨時休館する場合があります。

※鑑賞時間は、あくまでも目安となります。

混雑具合、また個人によって異なりますので、ご了承ください。

団体旅行を企画している方へ

(1) 10名様以上でご来館する場合

<予約について>

- ・ ベネッセハウス ミュージアム、地中美術館、李禹煥美術館へは必ず事前にご連絡ください。
- ・ 地中美術館：要予約。ベネッセアートサイト直島WEBサイトよりご予約ください。
スタッフが案内するミュージアムガイドツアー（有料・約30分）がございます。詳細はお問い合わせください。
※繁忙期間の詳細については、別途お問い合わせください。
- ・ 李禹煥美術館：要予約。ベネッセアートサイト直島WEBサイトよりご予約ください。
ミニガイド（無料・約10分間）を実施しております。詳細はお問い合わせください。
※繁忙期間の詳細については、別途お問い合わせください。
- ・ ANDO MUSEUM、宮浦ギャラリー六区は、団体予約は受け付けておりません。
- ・ 団体割引はございません。

<バス・駐車場について>

- ・ バスでお越しの場合、ベネッセハウス ミュージアム鑑賞の有無に関わらず、ベネッセハウスへご連絡をお願いいたします。
事前にご連絡をいただいていない場合、ベネッセハウスエリア内へのバスでの入場をお断りする場合もございます。
- ・ ベネッセハウスエリア内は駐車禁止です。待機・駐車場所につきましては、スタッフの案内に従っていただきますようお願いいたします。
- ・ ベネッセハウス ミュージアム駐車場へのバスの進入はご遠慮ください。スタッフの指定した場所に停車し、乗降は速やかをお願いいたします。
案内に従っていただけない場合は、以後の入場をお断りする場合がございます。
- ・ 地中美術館はチケットセンターに駐車場がございます。李禹煥美術館は駐車場はございません。

(2) ご来館時のお願い

- ・ 駐車場やバス停から各施設まで、歩く場合があります。また、坂道や、段差があるところもあります。歩きやすい靴でのご来館をおすすめします。
- ・ 家プロジェクト、地中美術館、李禹煥美術館には、靴を脱いでご鑑賞いただくスペースがあります。脱ぎ履きしやすい靴でのご来館をおすすめします。

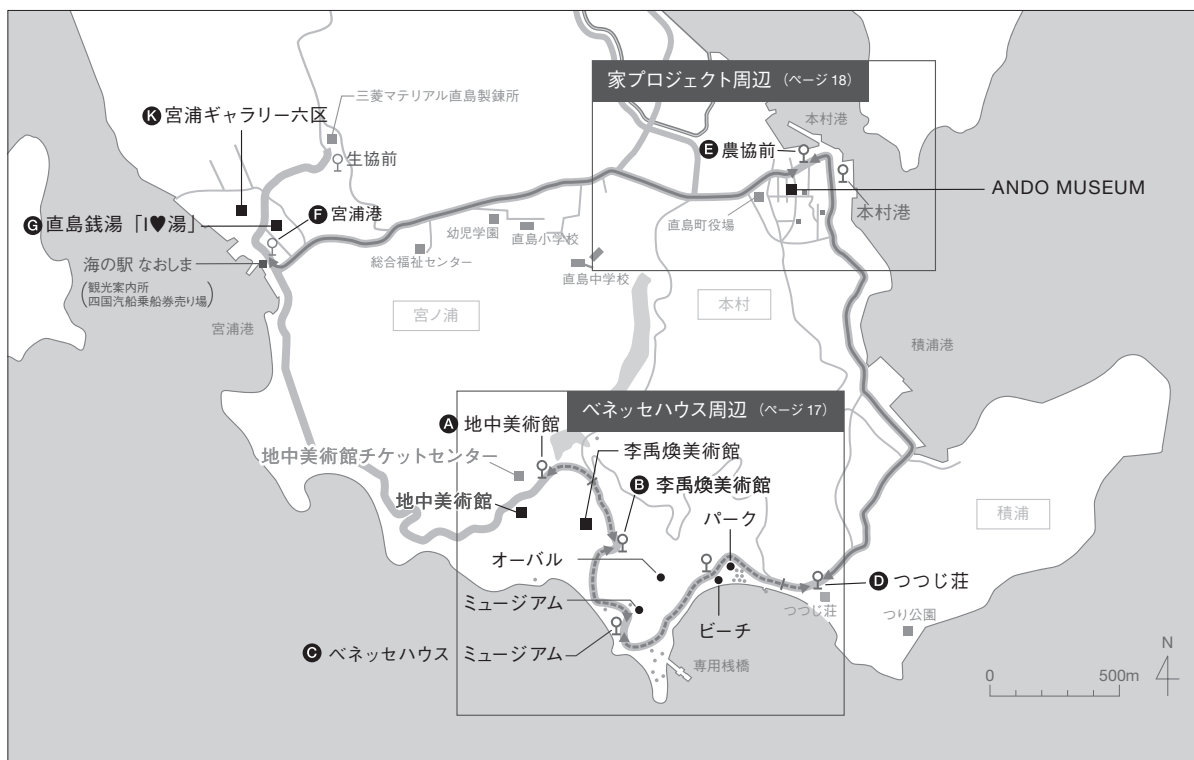
(3) ご鑑賞時のお願い

- ・ 壁、ガラス、作品にはお手を触れないようお願いいたします。
- ・ 館内でのビデオ、写真撮影、模写はご遠慮いただいております。
- ・ 所定の場所以外でのご飲食・喫煙はご遠慮ください。
- ・ お客様により良い環境でご鑑賞いただくため、館内および作品スペースでは、入館制限を行う場合がございます。
お待ちいただくこともございますので、あらかじめご了承ください。

Access

交通案内

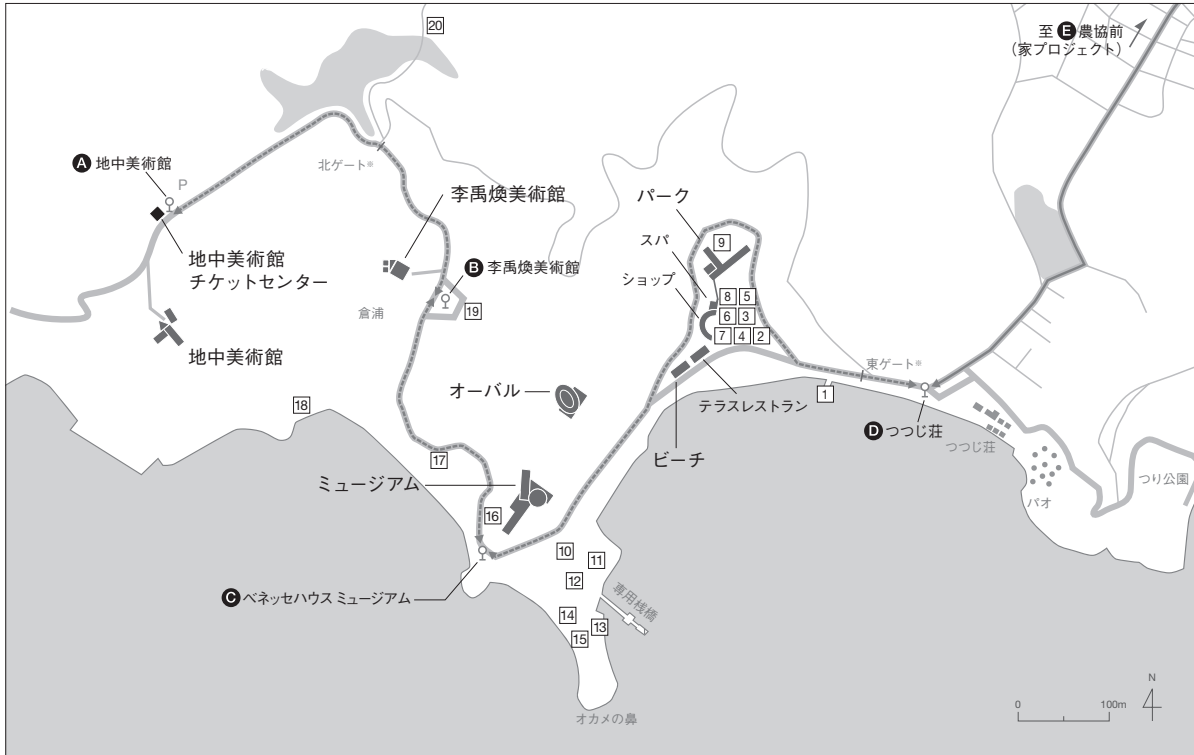
● 直島アクセスマップ



—— 町営バスルート - - - - - ベネッセアートサイト直島シャトルバス

● A 地中美術館 から ● B 李禹煥美術館 まで	🚌 3分	🚶 10分
● B 李禹煥美術館 から ● C ベネッセハウス ミュージアム まで	🚌 3分	🚶 10分
● C ベネッセハウス ミュージアム から ● D つつじ荘 まで	🚌 5分	🚶 10分～15分
● D つつじ荘 から ● E 農協前 (家プロジェクト・ANDO MUSEUM) まで	🚌 6分	🚶 25分
● E 農協前 (家プロジェクト・ANDO MUSEUM) から ● F 宮浦港 まで	🚌 10分	🚶 30分
● F 宮浦港 から ● G 直島銭湯「I♡湯」 まで	🚶 2分	
● F 宮浦港 から ● K 宮浦ギャラリー六区 まで	🚶 5分	
● G 直島銭湯「I♡湯」から ● K 宮浦ギャラリー六区 まで	🚶 3分	

● ベネッセハウス周辺



—— 町営バスルート - - - - - ベネッセアートサイト直島シャトルバスルート

● A 地中美術館 から ● B 李禹煥美術館 まで	🚌 3分	🚶 10分
● B 李禹煥美術館 から ● C ベネッセハウス ミュージアム まで	🚌 3分	🚶 10分
● C ベネッセハウス ミュージアム から ● D つつじ荘 まで	🚌 5分	🚶 10分～15分
● D つつじ荘 から ● E 農協前 (家プロジェクト・ANDO MUSEUM) まで	🚌 6分	🚶 25分

ベネッセハウス周辺作品

- | | |
|----------------------------|-----------------------------------|
| 1. 草間彌生「南瓜」 | 13. 杉本博司「タイム・エクスポーズド ミルトア海 スーニオン」 |
| 2. カレル・アペル「かえると猫」 | 14. 大竹伸朗「シップヤード・ワークス 切断された船首」 |
| 3. ニキ・ド・サンファール「会話」 | 15. 大竹伸朗「シップヤード・ワークス 船尾と穴」 |
| 4. ニキ・ド・サンファール「らくだ」 | 16. ジョージ・リッキー「フォー・ラインズ」 |
| 5. ニキ・ド・サンファール「象」 | 17. 蔡國強「文化大混浴 直島のためのプロジェクト」 |
| 6. ニキ・ド・サンファール「猫」 | 18. 杉本博司 |
| 7. ニキ・ド・サンファール「腰掛」 | 「タイム・エクスポーズド |
| 8. ダン・グラハム「平面によって2分割された円筒」 | 「ノルウェー海 ベステローデン諸島」 |
| 9. アンソニー・カロ「Final Call」 | 19. 小沢剛 |
| 10. ジョージ・リッキー「三枚の正方形」 | 「スラグブッダ88—豊島の産業廃棄物処理後の |
| 11. 片瀬和夫「茶のめ」 | スラグで作られた88体の仏」 |
| 12. ウォルター・デ・マリア | 20. 三島喜美代「もうひとつの再生 2005—N」 |
| 「見えて／見えず 知って／知れず」 | |

● 家プロジェクト周辺



—— 町営バスルート

- ① つつじ荘 から ⑤ 農協前 (家プロジェクト・ANDO MUSEUM) まで 🚌 6分 🚶 25分
- ⑤ 農協前 (家プロジェクト・ANDO MUSEUM) から ⑦ 宮浦港 まで 🚌 10分 🚶 30分

2015 10.14

Teshima

豊島

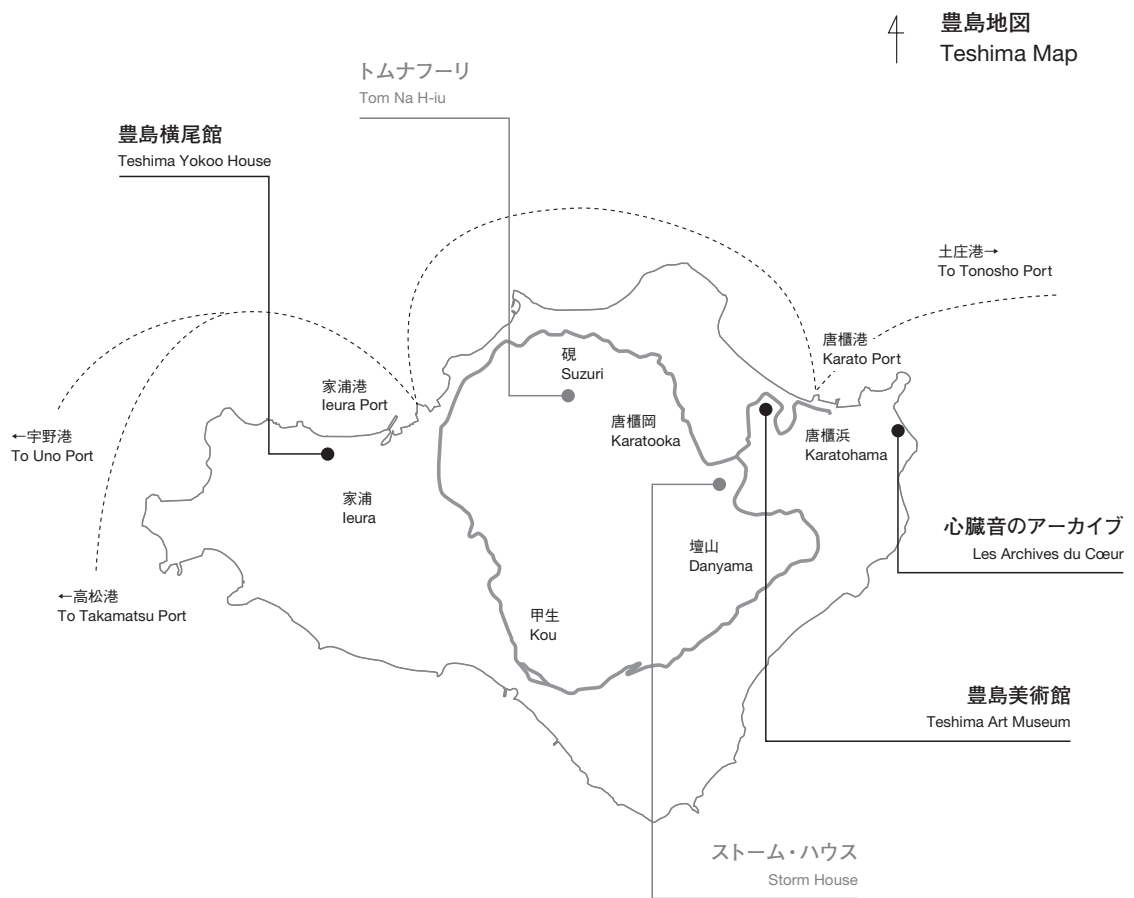
豊島美術館

心臓音のアーカイブ

豊島横尾館

Map

豊島周辺地図



面積 14.49km²
周囲 19.8km
人口 920人(2015年2月1日現在)

Teshima Art Museum

豊島美術館 アート：内藤 礼 建築：西沢立衛

アーティスト・内藤礼と建築家・西沢立衛による豊島美術館は、地元住民とともに再生した棚田の一角に据えられています。水滴のような形の建物は、空間に柱が1本もないコンクリート・シェル構造で、天井にある2カ所の開口部から、周囲の風、音、光を内部に直接取り込んでいます。内部空間では、一日を通して、いたるところから水が湧き出し「泉」が誕生しています。その風景は、季節の移り変わりや時間の流れとともに、無限の表情を伝えます。豊島美術館は、美術、建築、環境がまさにひとつとなった美術館です。

Cafe & Shop カフェ&ショップ

建築家・西沢立衛が空間をデザインした豊島美術館に隣接するカフェ&ショップスペース。カフェでは豊島産のお米を使用した軽食や、豊島産のフルーツを使用したデザート、ドリンク等をお楽しみいただけます。ショップスペースでは、豊島美術館に関連した書籍やオリジナルグッズのほか、豊島産の食品も販売します。



オリジナルTシャツ 各¥2,880 (税込)

アーティスト・内藤礼氏のドローイングがプリントされたオリジナルTシャツです。長袖¥3,000 (税込) もご用意しています。



(上) ポストカード各 ¥154 (税込)

(下) 書籍「豊島美術館ハンドブック」 ¥1,029 (税込)

「豊島美術館ハンドブック」には朝から夕方までの一日の様々な変化を写し出した美術館の写真や、アーティスト・内藤礼氏、建築家・西沢立衛氏のテキストを収録しています。

Les Archives du cœur

心臓音のアーカイブ

クリスチャン・ボルタンスキー「心臓音のアーカイブ (Les Archives du cœur)」は、豊島唐櫃地区王子ヶ浜の瀬戸内海に面した松林の中にひっそりと建つ小さな美術館です。心臓音に連動して電球が明滅するインスタレーションのある「ハートルーム」、希望者の心臓音を採録する「レコーディングルーム」、世界中から集められた心臓音をパソコンで検索し聞ける「リスニングルーム」で構成されています。録音した心臓音はご自身のメッセージとともにアーカイブのデータベースに登録され、作品の一部となります。

*収録した心臓音は、CDブックレットにしてお持ち帰りいただけます。(心臓音の登録料：別途1,540円必要/ブックレット付)



Shop ショップ

館内に併設されたショップスペース。オリジナルグッズや作家の書籍などを販売しています。



ポストカード 各¥154～206 (税込)

「ハートルーム」のインスタレーション作品や外観を写したポストカードです。



オリジナルノート A4サイズ 各 ¥1,543 (税込)

作品に使用されている「芳名帳」をイメージしたオリジナルノートです。

Teshima Yokoo House

豊島横尾館 コンセプト／アートワーク：横尾忠則 建築：永山祐子

当館はアーティスト・横尾忠則と、建築家・永山祐子により、豊島の玄関口となる港に面した家浦地区の、集落にある古い民家を改修してつくられました。展示空間は、既存の建物の配置を生かして「母屋」「倉」「納屋」で構成され、平面作品11点を展示しています。石庭と池、円塔にはインスタレーションが展開され、その空間は、生と死を同時に想起させる哲学的な場となっています。また、建物には光や色をコントロールする色ガラスを用いて、豊島の光や風や色、作品の見え方をさまざまに変容させています。

Facility Information

鑑賞のご案内

・豊島美術館

[利用案内]

開館時間 10:00～17:00 (最終入館16:30) 3月1日～9月30日
10:00～16:00 (最終入館15:30) 10月1日～2月末日

休館日 火曜日 (3月1日～11月30日まで)
火曜日から木曜日 (12月1日～2月末日)

※ただし祝日の場合は開館、翌日休館。

月曜日が祝日の場合は、火曜日開館、翌水曜日休館。

鑑賞料 1,540円 (15歳以下無料)

※当日に限り再入館可

駐車場 有

鑑賞時間 約1時間

[所在地・お問い合わせ]

〒761-4662 香川県小豆郡土庄町豊島唐櫃607

Tel: 0879-68-3555

Fax: 0879-68-2182

www.benesse-artsite.jp/teshima-artmuseum

・豊島横尾館

[利用案内]

開館時間 10:00～17:00 (最終入館16:30) 3月1日～9月30日
10:00～16:00 (最終入館15:30) 10月1日～2月末日

休館日 豊島美術館と同様

鑑賞料 510円 (15歳以下無料)

鑑賞時間 約30分

[所在地・お問い合わせ]

〒761-4661 香川県小豆郡土庄町豊島家浦2359

Tel: 0879-68-3555 (豊島美術館)

Fax: 0879-68-2182

www.benesse-artsite.jp/teshima-yokoohouse

※以下の豊島における施設は、ART SETOUCHIのこえび隊に運営委託しています。

トムナフーリ (アート: 森 万里子)

ストームハウス (アート: ジャネット・カーディフ&ジョージ・ビュレス・ミラー)

・心臓音のアーカイブ

[利用案内]

開館時間 10:00～17:00 3月1日～9月30日
10:00～16:00 10月1日～2月末日

休館日 豊島美術館と同様

鑑賞料 510円 (15歳以下無料)

鑑賞時間 約30分

[所在地・お問い合わせ]

〒761-4662 香川県小豆郡土庄町豊島唐櫃2801-1

Tel: 0879-68-3555 (豊島美術館)

Fax: 0879-68-2182

www.benesse-artsite.jp/boltanski

団体旅行を企画している方へ

(1) 10名様以上でご来館する場合

- ・ 豊島美術館、心臓音のアーカイブ、豊島横尾館：要予約。ご来館の一週間前までに電話・FAX・メールいずれかの方法でご連絡ください。
- ・ 団体割引はございません。
- ・ 豊島美術館：駐車場あり。
心臓音のアーカイブ、豊島横尾館：駐車場はありません。
- ・ 島内には、道幅の狭い道路がございます。バスで来島される場合は、中型バス程度までを推奨いたします。

(2) ご来館時のお願い

- ・ 駐車場やバス停から各施設まで、歩く場合があります。また、坂道や、段差があるところもあります。歩きやすい靴でのご来館をおすすめします。
- ・ 豊島美術館と豊島横尾館は、靴を脱いでご鑑賞いただいております。脱ぎ履きしやすい靴でのご来館をおすすめします。

(3) ご鑑賞時のお願い

- ・ 作品にはお手を触れないようお願いいたします。
- ・ 館内でのビデオ、写真撮影、模写はご遠慮いただいております。
- ・ 所定の場所以外でのご飲食・喫煙はご遠慮ください。

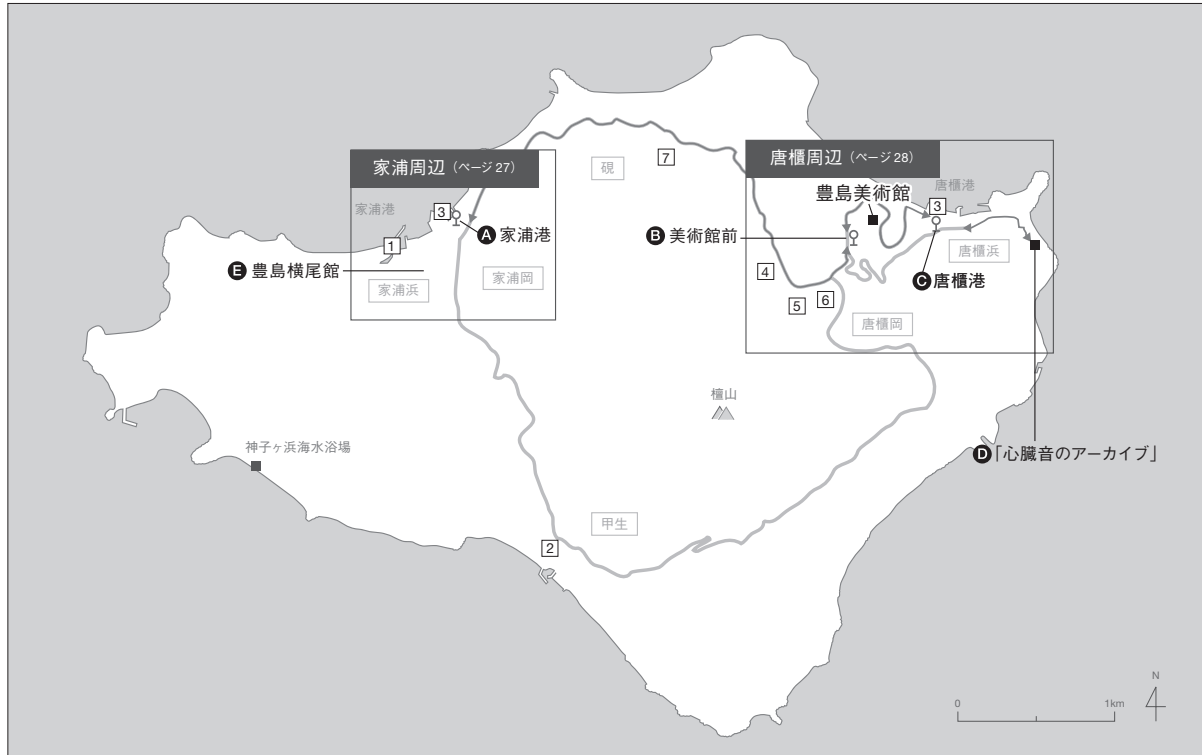
(4) 豊島での他の作品について

- ・ 下記の作品は、ART SETOUCHIのこえび隊が運営しております。開館日が異なりますので、ART SETOUCHIホームページにて、ご確認をお願いします。
イル・ヴェント／トムナフーリ／遠い記憶／島キッチン／ストーム・ハウス
ART SETOUCHIホームページ：<http://setouchi-artfest.jp/>

Access

豊島交通案内

● 豊島 アクセスマップ



- | | | | |
|-------------------------------|----|-----|------------|
| ● A 家浦港 から ● E 豊島横尾館 まで | 歩 | 5分 | |
| ● A 家浦港 から ● B 美術館前 まで | バス | 15分 | 🚲 30~40分 |
| ● B 美術館前 から ● C 唐櫃港 まで | バス | 3分 | 🚲 5分 歩 15分 |
| ● C 唐櫃港 から ● D 「心臓音のアーカイブ」 まで | 🚲 | 5分 | 歩 15分 |

※バスは豊島シャトルバス (有料) をご利用ください。

ART SETOUCHIの作品

1. トビアス・レーベルガー 「イル ヴェント」 (レストラン) ※1
2. 塩田千春 「遠い記憶」
3. ジョゼ・デ・ギマランイス 「フラワー/ハッピーズネーク」 (家浦港、唐櫃港)
4. 青木野枝 「空の粒子/唐櫃」 (屋外作品)
5. 島キッチン (レストラン) ※2
6. ピピロッチェ・リスト 「あなたの最初の色」 ※3
7. ジャネット・カーディフ&ジョージ・ビュレス・ミラー 「ストーム・ハウス」
7. 森万里子 「トムナフーリ」




※1 レストランです。店舗空間がトビアス・レーベルガーの作品「あなたが愛するものは、あなたを泣かせもする (日本フランチャイズバージョン)」となっています。

※2 レストランです。建築家・安部良が空家を改装しました。

※3 作品は島キッチンの敷地内にあります。

● 家浦エリア周辺



- A 家浦港 から B 豊島横尾館 まで  5分
 ● A 家浦港 から B 美術館前 まで  15分  30~40分

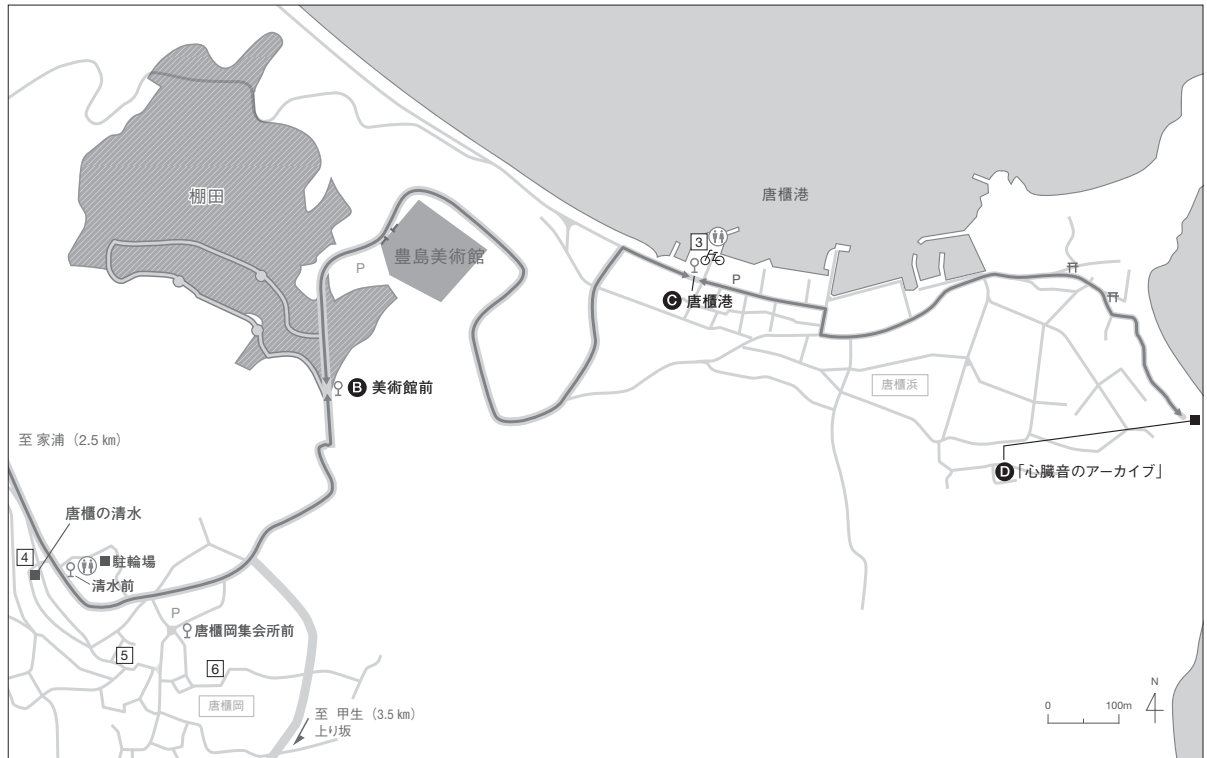
※バスは豊島シャトルバス (有料) をご利用ください。

ART SETOUCHIの作品

1. トビアス・レーベルガー 「イル ヴェント」 (レストラン) ※1
3. ジョゼ・デ・ギマランイス 「フラワー/ハッピーズネーク」 (家浦港、唐櫃港)

※1 レストランです。店舗空間がトビアス・レーベルガーの作品「あなたが愛するものは、あなたを泣かせもする (日本フランチャイズバージョン)」となっています。

● 唐櫃エリア周辺



- | | | |
|-------------------------------|--------|------------|
| ● A 家浦港 から ● B 美術館前 まで | バス 15分 | 自転車 30～40分 |
| ● B 美術館前 から ● C 唐櫃港 まで | バス 3分 | 自転車 5分 |
| ● C 唐櫃港 から ● D 「心臓音のアーカイブ」 まで | 自転車 5分 | 徒歩 15分 |

※バスは豊島シャトルバス(有料)をご利用ください。

ART SETOUCHIの作品

3. ジョゼ・デ・ギマランイス 「フラワー／ハッピーズネーク」 (家浦港、唐櫃港)
4. 青木野枝 「空の粒子／唐櫃」 (屋外作品)
5. 島キッチン (レストラン) ※2
ソリューション ピピロティ・リスト 「あなたの最初の色 (私の頭の中の解 - 私の胃の中の溶液)」 ※3
ソリューション
6. ジャネット・カーディフ&ジョージ・ピュレス・ミラー 「ストーム・ハウス」

※2 レストランです。建築家・安部良が空家を改装しました。

※3 作品は島キッチンの敷地内にあります。

2015 4.1

Inujima

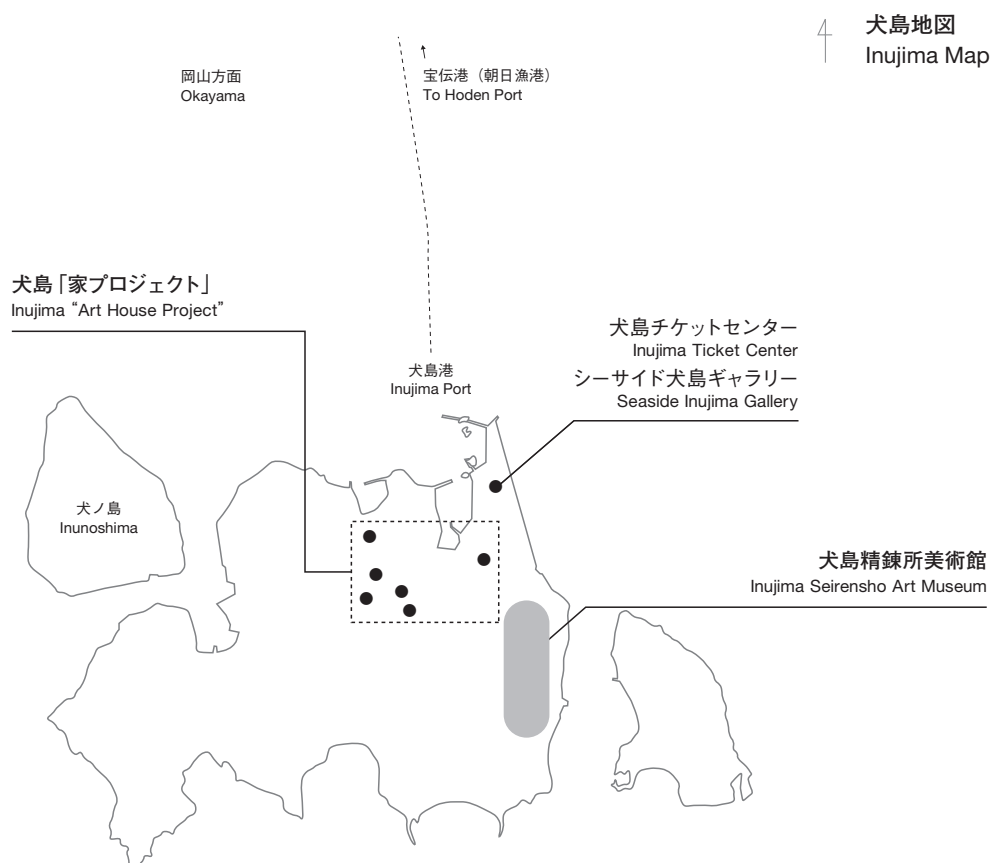
犬島

犬島精錬所美術館

犬島「家プロジェクト」

Map

犬島周辺地図



面積 0.54km²
周囲 3.6km
人口 47人(2015年1月末現在)

Inujima Seirenscho Art Museum

犬島精錬所美術館 アート：柳 幸典 建築：三分一博志

犬島精錬所美術館は、犬島の近代化産業遺産である製錬所の遺構を保存・再生した美術館です。自然エネルギーを利用した環境に負荷を与えない三分一博志の建築と、その建築とコラボレートすることを前提とした柳幸典のアートワークが設置されているほか、植物の力を借りた水質浄化システム（B.G.F.）を導入し、「遺産・建築・現代アート・環境」による新たな地域創造のモデルとして循環型社会を意識したプロジェクトです。

Seirenscho Cafe 精錬所カフェ

美術館館内にあるカフェ。犬島島民の方が考案したオリジナルドリンクやデザートなどを提供しています。ガラス越しに、作品や近代化産業遺産を鑑賞しながらご休憩いただけます。屋上の「みかんの森」では、キンカンや夏ミカンなどの柑橘類をB.G.F.によって栽培し、食材として使用しています。

*B.G.F.=植物の力を借りた高度な水質浄化システム「バイオ・ジオ・フィルター（Bio Geo Filter）」の略称。

[利用案内]

営業時間 10:30～16:30（ラストオーダー 16:00）

定休日 施設に準じます。

ただし、10月～6月は開館日でも閉店する日がございます。



コーヒーゼリー ¥510（税込）

犬島周辺で採れたところてん草という海草を使ったコーヒーゼリーです。アイスは追加¥100



犬島ジンジャー ¥510（税込）

犬島島民の方に教えていただいたレシピでつくった生姜シロップのオリジナルドリンクです。生姜の辛みがしっかり感じられる味です。

Inujima “Art House Project”

犬島「家プロジェクト」 アーティスティックディレクター：長谷川祐子 建築家：妹島和世

犬島「家プロジェクト」は、犬島の集落に展開する集落再生プロジェクトです。アートディレクター・長谷川祐子、建築家・妹島和世が風景を変容活性化させるギャラリーを犬島の集落に点在させます。2010年7月、企画展示を目的とする「F邸」「S邸」「I邸」の3つのギャラリーと、休憩スペースとして利用できる「中の谷東屋」を公開。2013年3月には、「A邸」「C邸」の2つのギャラリーが新たに公開されました。透明なアクリル素材や風景を映し出すアルミ素材の建物、瓦屋根や木を活かして改修された建物に展示されたアート作品は、島の暮らしや風景と一体となり集落に溶け込みます。犬島「家プロジェクト」は、犬島を訪れる方々や住民の皆様が「日常の中の美しい風景や作品の向こうに広がる身近な自然を感じられるように」との願いが込められています。

Art Works 作品紹介

第1期展示作品（2010～2013）

- F邸：柳幸典
「山の神と電飾ヒノマルと両翼の鏡の坪庭」2010
- S邸：柳幸典
「蜘蛛の網の庭」2010
- I邸：柳幸典
「眼のある花畑」2010

第2期展示作品（2013～）

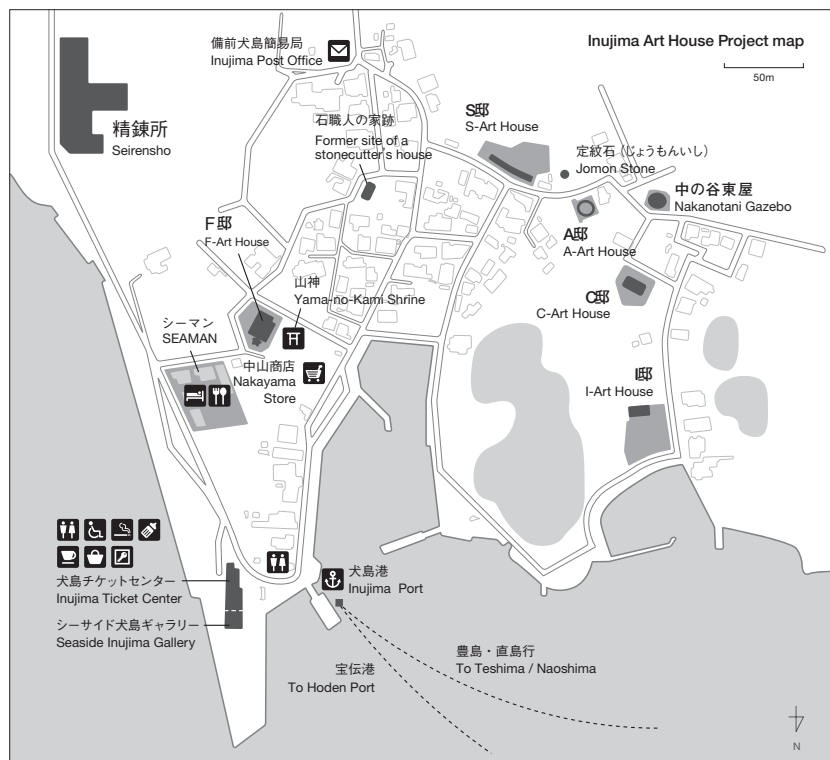
- F邸：名和晃平「Biota (Fauna/Flora)」2013
- S邸：荒神明香「コンタクトレンズ」2013
- I邸：前田征紀「Universal Reception」2013
「Universal Wavelength」2013*1 / 「Prayer」2011
- A邸：荒神明香「リフレクトゥ」2013
- C邸：ジュン・グエン＝ハツシバ
「The Master and Slave: Inujima Monogatari」2013
- 石職人の家跡：浅井裕介
「太古の声を聴くように、昨日の声を聴く」2013

第3期展示作品（2014/3/21～）

- I邸：小牟田悠介「ブレンミラー」2014 / 「リバース」2014
- C邸：下平千夏「エーテル」2015

*1 Jue and Anoa (Yukinori Maeda / Mayumi Tanaka)

*2 F邸、S邸、A邸、石職人の家跡の作品は、第2期の作品を引き続き展示しています。



Seaside Inujima Gallery

シーサイド犬島ギャラリー

シーサイド犬島ギャラリーは、犬島チケットセンター建物内にあるギャラリースペースです。かつてこの場所が「シーサイド犬島」という民宿であったことから名付けられました。2013年3月より、インドネシア出身のアーティスト、フィオナ・タンの映像作品を展示公開しています。

Art Works 作品展示 (2013～)

「Cloud Island I, Project for the Venice Architecture Biennale」(2010年)
アーティスト：フィオナ・タン

Inujima Ticket center cafe & Store

犬島チケットセンターカフェ & ストア

犬島チケットセンターは、犬島精錬所美術館、犬島「家プロジェクト」、シーサイド犬島ギャラリーの鑑賞チケットを販売するほか、ミュージアムショップとカフェを併設しています。カフェの窓からは穏やかな瀬戸内海を望めます。
※鑑賞チケットをお持ちでない方もご利用いただけます。

Ticket Center Store チケットセンターストア

犬島の各美術施設の関連書籍やオリジナルグッズ、地元岡山と瀬戸内の特産品などを取りそろえています。

【利用案内】

営業時間 10:00～17:00

定休日 施設に準じます。



ステーショナリー ¥154～¥514 (税込)

液晶温度計付きのサーモペンシル(¥154)や、7色のレインボーカラーが楽しめる煙突鉛筆(¥206)のほか、波や島をモチーフにしたマスキングテープ(¥514)などをご用意しています。



オリジナルトートバッグ ¥1,029 (税込)

近代化産業遺産の煙突をモチーフにしたキャンバス地のオリジナルトートバッグです。

Ticket Center Cafe チケットセンターカフェ

港すぐそばのチケットセンター内にあるカフェ。地元食材を用いたお食事、オリジナルドリンクやデザートなどを提供しています。団体での昼食予約も可能です。

【利用案内】

営業時間 10:00～17:00 (ラストオーダー 16:30)

定休日 施設に準じます。



たこめしセット ¥1230 (税込)

瀬戸内の漁師めしがルーツといわれている郷土料理の一品です。島民の方々が考案したレシピを元に、生タコの仕込みから丁寧につくっています。ドリンク付。



犬島ぜんざい ¥620 (税込)

犬島島民の方が子どものころおやつとして食べていたぜんざいを再現しました。小豆汁の中に、カボチャとそうめんが入っています。

Facility Information

鑑賞のご案内

・犬島精錬所美術館

[利用案内]

開館時間 10:00～16:30 (最終入館16:00)
休館日 火曜日(3月1日～11月30日)、
火曜日から木曜日(12月1日～2月末日)
※ただし祝日の場合は開館。翌日休館。
月曜日が祝日の場合は、火曜日開館、翌水曜日休館。
鑑賞料 2,060円(犬島精錬所美術館、犬島「家プロジェクト」
シーサイド犬島ギャラリー共通)(15歳以下無料)
鑑賞時間 約1時間

・犬島「家プロジェクト」

[利用案内]

開館時間 10:00～16:30 (最終入館16:00)
休館日 犬島精錬所美術館と同様
鑑賞料 2,060円(犬島精錬所美術館、犬島「家プロジェクト」
シーサイド犬島ギャラリー共通)(15歳以下無料)
鑑賞時間 約1時間

[両施設の所在地・お問い合わせ]

〒704-8153 岡山県岡山市東区犬島327-4 Tel: 086-947-1112 Fax: 086-947-1115

団体旅行を企画している方へ

(1) 10名様以上でご来館する場合

- ・ スムーズな入館のため、事前に必ず施設へご連絡ください。
- ・ 団体割引はございません。
- ・ 犬島精錬所美術館・犬島「家プロジェクト」では、プライベートツアー（有料）を実施しています。美術館スタッフによる、アート・建築の解説に加え、犬島精錬所美術館では銅製錬時代の話、犬島「家プロジェクト」では島内の見どころやエピソード等をご紹介します。詳細は施設までご連絡ください。
- ・ 団体でご来館の場合、食事のご予約も可能です。詳細は施設までご連絡ください。

(2) ご来館時のお願い

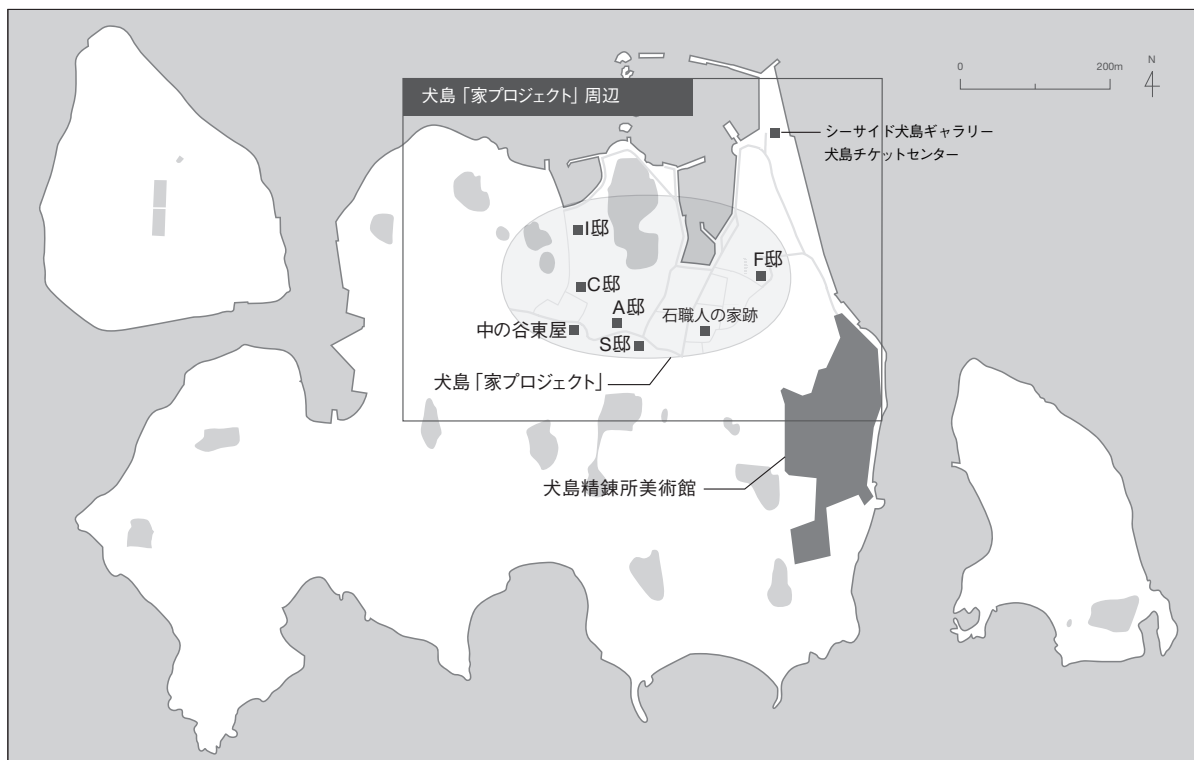
- ・ 犬島精錬所美術館敷地内には、遺構や自然環境をそのまま残している部分があり、一部危険区域（倒壊・陥没など）があります。設置されている柵および立入禁止表記のある所には入らないでください。
- ・ 犬島「家プロジェクト」の施設周辺は住宅地です。島内を散策される際は、下記のマナーを守り、住民の方々のご迷惑にならないようご配慮をお願いいたします。
 - ※ゴミは必ずお持ち帰りください。
 - ※近隣のご迷惑にならないよう、写真撮影、話し声のご配慮をお願いいたします。
 - ※私有地への立ち入りはご遠慮ください。
 - ※島内の物（草花等）を持ち帰らないようお願いいたします。
- ・ 島内は歩いて移動となります。また、坂道や、段差があるところもあります。歩きやすい靴でのご来館をおすすめします。

(3) ご鑑賞時のお願い

- ・ 館内および作品スペースにはそれぞれ入館制限があり、お待ちいただく場合がございます。
- ・ 壁、ガラス、作品にはお手を触れないようお願いいたします。
- ・ 館内でのビデオ、写真撮影、模写はご遠慮いただいております。
- ・ 所定の場所以外でのご飲食・喫煙はご遠慮ください。

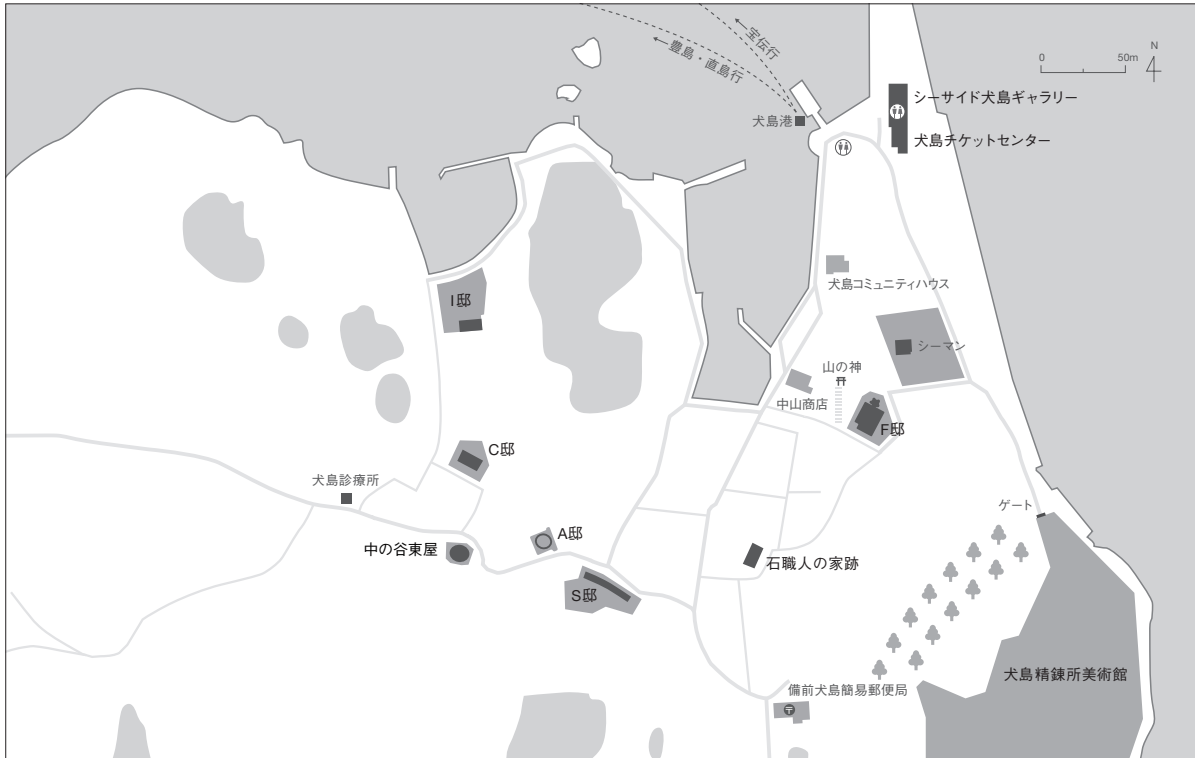
Access

犬島交通案内



犬島港 から チケットセンター まで
チケットセンター から 犬島精錬所美術館まで
犬島「家プロジェクト」鑑賞

歩 港降りてすぐ
歩 5分
歩 約60分



犬島港 から チケットセンター まで

犬島チケットセンター から 犬島精錬所美術館 まで

犬島「家プロジェクト」鑑賞

🚶 港降りてすぐ

🚶 5分

🚶 約60分

取材・写真掲載をご希望の方、又は 団体旅行向けパンフレット、チラシ作成をご検討している方へ

[申込フロー]

- ① 団体旅行企画等の日時で催行に問題がないか各施設とご調整ください。
- ② ベネッセアートサイト直島ホームページにて、写真使用、掲載のお申し込みをお願いします。
<http://www.benesse-artsite.jp/contact/press.html>
(ユーザー登録後、お申し込みの流れとなります)
- ③ 掲載可の場合、写真画像データを送信いたします。
※ご依頼内容によっては、ご希望に沿えない場合もありますのでご了承ください。
※通常、返答は5営業日(土・日・祝日除く)以内とさせていただきます。
お申し込み順に確認をしておりますため、急なご依頼への対応は致しかねますのでご了承ください。
- ④ 校正原稿をご送付ください。
※返答は順次行っております。お時間に余裕を持っていただけますようお願い致します。
- ⑤ ご発行後、見本紙(誌)をお送りください。

[画像貸出について]

- ・ 現在、広報方針により、ベネッセハウスへ宿泊するツアー、またはベネッセアートサイト直島の各施設が行程に含まれている場合のみ、写真を貸し出ししております。周辺観光案内としての写真の貸し出しはしておりません。
- ・ 下記施設については、ツアーパンフレット等へは、外観写真のみをお貸し出ししています。
【直島】地中美術館・李禹煥美術館・直島銭湯「I♥湯」・家プロジェクト
【豊島】豊島美術館・心臓音のアーカイブ
【犬島】犬島精錬所美術館・犬島「家プロジェクト」

[画像の扱いについて]

- ・ トリミングなしでお願いします。
- ・ 写真の上には文字、他の画像など何も載せないようお願いします。
- ・ 写真の周りに修飾はつけないようお願いします。
- ・ 基本的に白背景でお願いしております。
- ・ クレジットを明記ください。
(クレジットはプレス用貸出画像一覧に記載の通りでお願いします。日・英いずれかで可)
- ・ お申し込み案件以外のご利用はご遠慮ください。

雑誌の取材・掲載をご検討している方へ

ベネッセアートサイト直島ホームページにて、掲載のお申し込みをお願いしております。

<http://www.benesse-artsite.jp/contact/press.html>

※ユーザー登録後、お申し込みの流れとなります。

※詳細な企画書、レイアウトなどの添付をお願いいたします。

[お申し込み前に]

- ・当アートサイトは、観光地としてのPRは行っていないため、観光地としてのご紹介は、基本的にお断りしております。
(観光地、観光客などの言葉の使用は避けていただけますようお願いいたします)
- ・写真は公式写真の利用をお願いしております。独自に撮影された写真などのご利用は、ご遠慮ください。
- ・著作権保護、当アートサイトのコンセプト維持の観点より、イラスト、画像を多用した記事への掲載は、辞退しております。
- ・ご来館者の感性を大切にするため、キャッチコピーなどのご使用はご遠慮ください。

[画像の扱いについて]

- ・トリミングなしでお願いします。
- ・写真の上には文字、他の画像など何も載せないようお願いします。
- ・写真の周りに修飾はつけないようお願いします。
- ・基本的に白背景でお願いしております。
- ・クレジットを明記ください。
(クレジットはプレス用貸出画像一覧に記載の通りでお願いします。ただし、日・英いずれかで可)
- ・お申し込み案件以外のご利用はご遠慮ください。